

昭和二十七年七月一日  
昭和二十七年七月一日

日本共産党関係雑件  
朝鮮共産党関係

S.P. 15030  
Sack 20  
Item 7 第  
十卷

第  
一  
門  
類  
目  
録  
I  
4  
5  
2  
3-10

I-0855

0005

CLASS NO.
363.8
G113
10

34951

I-0855

0006

(分類工外 八二3-10)

名 件

共產黨嫌疑者朝鮮人黃菊燦引渡ニ關スル件

石 射 總 領 事

宛 寫 送 付

昭 和 六 年 一 月 九 日 附 機 密 公 領 第 一 號

外務大臣 男爵 幣原 喜重郎 殿

昭 和 六 年 一 月 十 三 日  
在 長 春  
領 事 田 代 重



亞細亞局  
機密公第二二號

第二編



昭和六年一月廿六日  
(別紙添附)

K-13

I-0855



機密公領第一號

昭和六年一月九日

在長春

領事

田代

重徳

在吉林

總領事

石射

猪太郎殿

共產黨嫌疑者朝鮮人黃菊燦引渡ニ關スル件

本件ニ關シテハ客年十二月二十六日附機密各領第一九號ヲ以テ申進  
置キタル處當時豫想シタル通り今般長春市政籌備處長ヨリ  
東北邊防軍駐吉副司令及吉林省政府ノ電報ニテ黃菊燦、黃世亨ノ兩  
名ハ吉敦沿線暴動事件ノ際新開道ニ於テ保衛團一分隊ノ銃器ヲ強奪  
シタル共產黨ノ首領ナリ尙敦化ニ報告ニ據レハ昭和五年十二月二  
十一日保衛隊カ警水屯ニ於テ共產黨員ヲ捜査シタル際彼等ヨリ反響  
ヲ受ケタルニ付應戰シタルニ斃死シタル二名ノ共匪ノ所持シ居タル  
銃器ノ番號ヲ調査シタル處曩ニ保衛團ニテ強奪サレ允モノナリシコ

K-14

ト判明セリ又金壽水屯長ノ申立テニモ該共匪ノ首領ハ黃菊燦、黃世  
亨ノ兩名ナリトノ趣ナルヲ以テ速カニ交渉引渡ヲ受クヘントアリタ  
ルニ付表ニ逮捕シタル黃菊燦ヲ引渡サレタシ云々  
ト公文ヲ以テ照會ニ按シタリ

然ルニ黃菊燦カ共產黨員タルノ確證ナク全ク私怨ニ因ル逆宣傳ノ結  
果ニ外ナラサル次第ハ既報ノ通り長春警察署ノ取調ニ依リ明カナ  
ルノミナラス假リニ共產黨員タルノ證據アリトスルモ之ヲ中國側ニ引  
渡シテ處分ヲ受ケシムル筋合ノモノニアラスト被存ルルヲ以テ今回  
ノ市政籌備處長ノ申越ニ對シテハ依然曩ノ公文第一三七號ノ趣旨ヲ  
一貫シテ應對スル所存ナリ但公文ノ應答ハ御承知ノ通り中國人一流  
ノ體面問題ヨリ動モスレハ論争ヲ索クスル虞アリト思料セラレタル  
ヲ以テ單ニ口頭ヲ以テ  
共產黨ノ取締ハ實我兩國共同ノ目的ナルニ付黃菊燦取締ノ結果ハ曩  
ニ公文第一三七號ヲ以テ申進置キタル通り朝鮮人間ノ私怨ニ基ク逆  
宣傳ノ結果ニ因ルモノナルコト明カナリト雖モ貴方ヨリ更ニ確實ナ

K-15

ル犯罪證據ヲ提示セララルナラハ當方ハ法規ニ照シ嚴重處分シ貴方  
ヲ満足セシムヘキニ付此ノ旨省政府筋ニ傳言アリ度シ  
ト簡單ニ申入置キタリ  
尙黃菊燦ハ長春警察署カ釋放ノ際長春朝鮮人會長ノ保證ヲ取リ附  
アリ黃ハ平常通り吉源精米所ニ勞働シツツアリトノ趣ナリ  
右御送進此段申進ス

本信寫送付先

外務大臣、奉天、哈爾濱、間島

關東長官、朝鮮總督

K-16

I-0855

0009

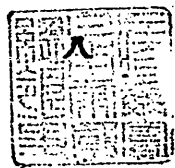
亞細亞局  
機密第三四號

昭和六年一月十三日

在哈爾濱

總領事 八木

元



昭和六年一月廿日 接受  
6.1.22

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

中五農民協會第七支部組織ニ關スル件

志保根

本件ニ關シ當領警察ノ課知スル處ニ據レハ中國共產黨員鮮人金萬善外  
數名ノ發見ノ下ニ昨年十月中五常務幹河屯居住林吉漢方ニ於テ同村青  
年吳銀三外數十名集合シ中(五農民協會(朝鮮共產黨滿洲總局ノ解体  
宣言ニ追從昭和五年七月解体宣言ヲ發シテ中韓農民協會ノ組織ニ着手  
セル北滿農民同盟ノ變身ニシテ中韓農民協會ノ細胞体ト巨スヘキ事ノ

一ナルモノヲ組織シタルカ會員ハ十八名ニシテ同會員タルニハ十五歳  
以上三十歳未満ノモノヲ有資格者トシ入會金哈洋一元ヲ要スト云フ而  
シテ同協會ノ幹部及綱領ヲ示セハ左ノ如シ

記

- 中五農民協會委員長 金世炳
- 庶務兼教育部 金昌根
- 農益部 金五善
- 宣傳部 文九元
- 組織部 朴仁祚
- 外交部 張文七
- 少年部 李奎赫

I-0855

綱 領

- 一、土地永久小作權及永賃權ノ確立
- 二、小作料減額ト地主代理其他一切中間搾取者ノ撲滅
- 三、高利貸業者及土豪劣紳ノ打倒
- 四、雇傭農ニ對スル封建的搾取ト抑壓ノ廢除
- 五、土地租借及分配權ノ「農民協會」ニ集中
- 六、階級的自衛ノタメ農民自衛隊ノ組織
- 七、在滿韓人教育自主權ノ戰取
- 八、言論集會結社及爭議ノ自由
- 九、婦人及青年少年ニ對スル封建的抑壓廢除
- 十、日本帝國主義滿蒙侵略ノ排擊

- 十一、中國共產黨主義運動ニ參加
- 十二、日本帝國主義ノ打倒

以上

右何等御參考迄報告ス

本信爲送附先

在中華民國公使 在北平首席 在奉天 上海 吉林  
高島 南京 長春 齊々哈爾 滿洲里各總領事領事  
朝鮮總督府內務局長

昭和六年一月十六日

機密第三七號

昭和六年一月十六日

在奉天

總領事 林 久治 郎

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿



朝鮮人共產黨取締ニ關スル中國側ノ訓令ニ關スル件

本件ニ關シ當節警察情<sup>報</sup>トシテ別紙送付ス

本信寫送付先、朝鮮外事課長、問島、吉林總領事

在奉天日本總領事館

Handwritten signature or mark.

昭和六年一月廿四日接受



吉林駐在東亞日報通信員ヨリ當地南滿總支局宛通信ニ依レハ最近吉林省當局ニ於テハ鮮人共匪カ磐石縣煙筒山ヲ中心ニ一大暴動ヲ計劃セルヲ諜知シ直ニ同地方ニ討伐隊ヲ出動セシムル外同省民政廳ニ於テハ別ニ防共令七條ヲ發布シ朝鮮人ノ集會結社ハ勿論居住通行ノ自由迄モ制限スルコトトナリタル趣ナルカ該防共令ノ内容左記ノ如シ

記

- 一、公安局所ト保衛正分隊ハ隨時ニ警丁ト朝鮮語ニ通スル者ヲ派遣シ朝鮮人ノ舉動ヲ探訪シ忠誠ナル歸化朝鮮人ヲ酌用シ偵探ト感化等ノ事ニ任セシムルコト
- 二、知識アル朝鮮人職業ナク遊蕩スル朝鮮人及朝鮮人カ集居スル各村ノ學校商店住宅等ニ對シ警團ヲシテ特別ニ注意セシメ其ノ行動ヲ

在奉天日本總領事館

K-18

K-17

I-0855

00:12



監視シ少シテモ異常ナル者ニ對シテハ應當搜查ヲ要スルコト  
三、民政廳ニ於テ規定セル朝鮮人戸口調査辦法ニ依リ切實ニ編査シ又  
ハ連坐互保及中鮮混合互保ヲ實行スルコト  
四、必要ナル場合ハ朝鮮人間ノ往來スル書信電報等ヲ検査シ又ハ船車  
通行スル地方ニハ人員ヲ派シ其ノ行旅ヲ検査スルコト  
五、朝鮮人ノ私有槍械ヲ取締リ或ハ槍執照ヲ所有スル者ナリト雖モ他  
人ヨリ借用スルコトヲ得ルコトト  
六、朝鮮人ノ増加人口及其ノ遷移ヲ即時ニ報告シ然ラサルモノハ違罰  
罰法第三十四條ノ規定ニ依リ處罰スルコト  
七、朝鮮人ノ秘密集會結社及其レニ類似セル集會結社等ノ行爲ニ對シ  
嚴密取締ヲ要スルコト

在奉天日本總領事館

K-19

I-0855



機密第三七號

昭和六年一月十六日

在奉天總領事 林 久 治 郎

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

朝鮮人共產黨取締ニ關スル中國側ノ訓令ニ關スル件  
本件ニ關シ當館警察情報トシテ別紙送附ス

本信寫送付先、朝鮮外事課長、間島、吉林總領事

（添付紙）

外務省

5.8

吉林駐在東亞日報通信員ヨリ當地南滿總支局宛通信ニ依レハ最近吉林省當局ニ於テハ鮮人共匪カ磐石縣煙筒山ヲ中心ニ一大暴動ヲ計劃セルヲ諜知シ直ニ同地方ニ討伐隊ヲ出動セシムル外同省民政廳ニ於テハ別ニ防共令七條ヲ發布シ朝鮮人ノ集會結社ハ勿論居住通行ノ自由迄モ制限スルコトトナリタル趣ナルカ該防共令ノ内容左記ノ如シ

記

一 公安局所ト保衛正分隊ハ隨時ニ警丁ト朝鮮語ニ通スル者ヲ派遣シ朝鮮人ノ舉動ヲ探訪シ忠誠ナル歸化朝鮮人ヲ酌用シ偵探ト感化等ノ事ニ任セシムルコト  
二 知識アル朝鮮人職業ナク遊蕩スル朝鮮人及朝鮮人カ集居スル各村ノ學校商店住宅等ニ對シ警團ヲシテ特別ニ注意セシメ其ノ行動ヲ

外務省

5.8

I-0855

00:14

監視シ少シテモ異常ナル者ニ對シテハ應當搜查ヲ要スルコト  
民政廳ニ於テ規定セル朝鮮人戶口調査辦法ニ依リ切實ニ編査シ又  
ハ連坐互保及中鮮混合互保ヲ實行スルコト  
必要ナル場合ハ朝鮮人間ノ往來スル書信電報等ヲ検査シ又ハ舟車  
通行スル地方ニハ人員ヲ派シ其ノ行旅ヲ検査スルコト  
朝鮮人ノ私有槍械ヲ取締リ或ハ槍執照ヲ所有スル者ナリト雖モ他  
人ヨリ借用スルコトヲ得サルコト  
朝鮮人ノ增加人口及其ノ遷移ヲ即時ニ報告セシメ然ラサルモノハ  
違警罰法第三十四條ノ規定ニ依リ處罰スルコト  
朝鮮人ノ秘密集會結社及其レニ類似セル集會結社等ノ行爲ニ對シ  
嚴密取締ヲ要スルコト

(添付紙ト)

外務省

5.8

寫

朝保秘第二十一號  
昭和六年一月十六日  
朝鮮總督府警務局  
中央委員會哈爾濱極東事務局ヨリ哈爾濱支部ヘノ指令  
ニ關スル件  
首題ノ件ニ關シ客年十二月二十九日附在哈爾濱派遣員ヨリ左ノ通り  
受報セリ御參考迄  
記  
首題ノ指令入手セルカ其ノ要旨ハ東支鐵道南滿洲鐵道及國境地帯ニ  
於ケル黨組織指導機關ハ軍歴ヲ有スル黨務員ヲ選抜シ軍事細胞網ヲ  
充實シ其活動ヲ盛ナラシメプロレタリアイトノ軍事化ヲ實現スヘシ

(添付紙ト)

外務省

5.8

I-0855

0015

(添付紙)

黨ノ現下ノ事業ハ極東諸民族プロレタリアートヲ以テ黨ノ戰鬥力ヲ  
組織シ總武裝暴動ヲ準備スルコトナリト云フニ在リ  
本書送付先 拓務省朝鮮部長 朝鮮軍司令官

關東廳警務局長 朝鮮憲兵隊司令官

外務省亞細亞局長 各道知事

在支公使 各派隨員

天津、奉天、吉林、哈爾濱、間島總領事

安東、鐵嶺領事

外務省

5.8

一ノア  
ル  
ト  
ハ  
イ  
ハ  
ル

(添付紙)

一九三〇年十二月十一日 第一二五六號

中央委員會哈府極東事務局ヨリ

哈爾濱極東事務局支部ヘノ一般指令

極東ニ於テ世界的意義ヲ有スル諸事件カ發展シツツアルニ鑑ミ本指  
令ヲ黨總線ノ規律ニ於テ即時遂行セラレ度シ

東支鐵道、南滿州鐵道及國境地帯ノ黨組織ノ全指導機關ハ軍歴ヲ有  
スル、コムサモール出身ノ黨務員ヲ選拔スルコトニ依リ軍事細胞網  
ヲ充實シ其活動ヲ發展セシムヘキ事業ニ即時着手スヘシ縣黨委員會  
ハ組織部分ニ於ケルト同様當該地方ノ戰鬥細胞ノ直接的事業方面ニ  
於テモ教官ヲシテ戰術綱領ノ實行ヲ嚴重ニ監督セシムベキモノトス  
組織ニシテ參考資料ヲ充分持合ハセサル地方ニ於テハ各教官並ニ政

5.8

外務省

I-0855

00:16

治指導員ハ既發ノ凡有指令並ニ訓令ニ基キ嚴格ニ指導ヲ行ヒツツ指導機關ノ會員ヨリナル指定ノ細胞ヲ編成スルコトニ就テハ私的發案權ヲ表示スベキ義務アルモノトス（譯者註、指定ノ細胞ハ之ヲ自發的ニ適宜編成スヘキ義務アルモノトス）

プロレタリアイトノ軍事化事業ノ設定ニハ特種ナ手腕ト技能ヲ要スルヲ以テ極東軍務局組織部ハ極東異民族ノ黨員ヲ現地ニ派遣スルヲ以テ極東軍務局組織部ハ極東異民族ノ黨員ヲ現地ニ派遣スル縣黨委員會ハ労働革命軍ノ中堅トシテ戰鬥細胞ヲ創設スルニ當リ現地ニ於ケル黨戰鬥細胞ハ指導機關ノ全事業ニ於テ第一線ニ活動スベキモノノ一タルベキコトヲ銘記スヘシ

現在下層大衆ノ直接行動ニ對スル覺醒顯著ナルモノアルニ鑑ミ此種下層大衆間ニ黨勢力ヲ充實擴張スル目的ヲ以テ各黨員ハ周圍ノ大衆

（森林誌）ト

外務省

ト密接ニ結着スルコトヲ要ス

下層諸機關ニ於ケル凡有方面ノ活動ヲ強化セシムル爲ニ極東事務局支部ハ黨指揮課程ノ薄弱ナル地方ニ教官ヲ派遣シ之等ノ教官ヲ商業代表石油シンジケート代表機關並ニ其他黨縣委員會附トシテ駐在セシムベシ而シテ派遣ヲ容易ナラシムル爲ニ之等教官ヲシテ上記諸機關ト密接ナル連絡ヲ取ラシメ黨ノ合言葉出頭場所並ニ當該地方ノ行政機關ノ取締狀況等ニ關シ通曉セシムベシ

細胞會員及黨組織ニ接近シ且ツ勞力民衆ト連絡アル者ニハ個人的煽動方法ヲ用ヒシムベシ細胞間ノ黨力ノ分配ヲ平均シソレニ依リ課題ニ對スル虚飾的態度ヲ避ケ一切ヲ系統的責任ヲ以テ履行スベキ義務アルモノトス

（森林誌）ト

外務省

I-0855

工場地及各種民族ノ団体ヲ有スル都市ニ於テハ直接黨機關ノ指導下ニ以テ各種団体間ニ代表ヲ交換スルコトニ依リ職業的連絡ヲ設定スヘシ

就學青年間ニ黨組織ガ著シク増加シタルコトハ黨勢力ノ増大ヲ實證スルモノナリサレバ各組織ニ青年政治指導員ヲ入込マシムル方法ニ依リ指導機關側ヨリハ指導ヲ強ムヘキコトヲ提議ス而シテ其活動力ヲ調節セシムル爲ニ縣黨委員會ニ直屬スル獨立的ノ區機關ノ組織ニ着手シ且々此種機關ニ物質的補助ヲ與ヘ區組織者ノ活動ト青年區委員會トノ間ニ完全ナル連絡ヲ設定スベキ必要アリトス

縣黨委員會ト就學青年間ノ連絡ヲヨリ密接ナラシムル爲ニ細胞ノ代表者會議ヲ月一回以上定期的ニ召集スヘシ組織的活動ヲ成功セシム

外務省

ル爲ニ組織シタル細胞内ニ書記ヲ任命スルコトニヨリ指導ノ中央集權化ヲ實施スル必要アリト認ム

下級學校ニ於ケル黨事業力秘密事業ナルコトノ客觀的諸條件ニ鑑ミ都市學校内細胞作戰書記ノ指導ノ下ニ政治講習會ヲ創設シテ獨學的事業ヲ行ハシムル手段ヲ講スヘシ

黨面ノ諸問題ニ關スル宣言、其他ヲ騰寫版刷ヲ以テ系統的ニ發行スル必要アリト認ム青年ノ陳報網擴張策ヲ講スヘシ

最初ノ準備期ニ於ケルト同様其後ノ發展期ニ於テモ現地ニ於ケル黨務員ハ管下ノ組織中ヨリ右翼傾斜分子ヲ嚴重ニ驅逐スベキモノトス被壓迫國ノ勞力大衆ノ壓迫國ノプロレタリアートニ對スル疑惑ヲ克服スル目的ヲ以テ民族ノ區別ヲ設ケズシテ合同細胞ヲ組織セシムヘシ

外務省

I-0855

00:12

總(赤神紙)

シ同様ノ目的ニ於テ完全ナル團結ヘノ過渡的形式トシテ中央委員會  
極東局支部戰鬥作戰部ノ手中ニ統一サルル各極東諸民族共產黨ノ戰  
闘力ノ聯邦的團結ヲ實現スベキモノトス  
黨組織ノ現下ノ事業ハ極東諸民族プロレタリアトヲ以テ黨ノ戰鬥  
力ヲ組織スルト共ニ總武裝暴動ヲ準備スベキコトニ存ス本事業ニハ  
新シキ大衆ヲ流入セシメ當初ヨリ地域的特質ニ依リ最モ嚴格ナル中  
央集權主義ヲ行フベキモノトス  
軍事的性質ノ一般的指令ハ中央委員會極東事務局支部ヨリ發スルモ  
具體的實施計畫ハ現地黨部隊作戰部ニ於テ之ヲ定メ黨部隊作戰部ハ  
黨方針ニ關シテハ極東事務局支部ニ對シ直接責任ヲ負ヒ戰鬥方針ニ  
關シテハ朝鮮共產黨中央委員會作戰部ニ對シ直接責任ヲ負フベキモ

外務省

總(赤神紙)

ノナリ  
本指令ハ癸二十二月期ニ對シ發スル指令ノ補足指令ナリトス  
事務局議長代理 プシエニーツイン

外務省

I-0855

機密第九五號

昭和六年一月三十一日

在間島總領事 岡田兼一

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

極東露領ニ於ケル朝鮮人ノ分布狀態並ニ共產化狀況并  
關スル件（琿春頭道溝分署長報告）

本件ニ關シ一九三〇年十一月末調査極東露領ニ於ケル朝鮮人ノ分布  
並ニ共產化狀況ニ關シ赤露極東政廳統計局ニ於テ一月十日左記ノ通  
發表セルヲ諜知セリ

御參考迄

記

外務省

在露鮮人縣別戸口

縣別	戸數	人口		計
		男	女	
浦潮縣	九八二三	二五一八	三八九五	四九〇一
ハバロフスク縣	七九四二	二〇一三	一九五八	三九七一
ニコラエフスク縣	六二八〇	一六三三	一五〇四	三一四三
スレゼンスク縣	五七〇一	一四〇二	一四四八	二八五〇
カムチャツカ縣	三二七五	八八六二	八四九一	一七三五
チタ縣	一四八三	三七一八	三六九七	七四一五
アムール縣	一三四九	三五一	三三四	六七四五
セイスク縣	一〇五八	二四〇一	三八四九	五二五〇
サハートレン縣	九二六	二二一六	二四一二	四六二八

外務省

I-0855

0020



シ ン チ ン ス ク 縣	計	ニ在露鮮人ノ共產化狀況		ア ム ル 縣	チ タ 縣	カ ム チ ヤ ツ カ 縣	ス レ ゼ ン ス ク 縣	ニ コ ラ エ フ ス ク 縣	ハ バ ロ フ ス ク 縣	浦 潮 縣	黨 員候補黨員共青會員モブル會員		計
		レ	シ								レ	シ	
八三七	三八六七	一三	一	七三	九一	一〇〇	一三一	一八四	二二〇	二三四	レ	レ	計
二一三七	九八四	二〇	一	九五	一一二	一三五	二〇一	二一三	四五二	四八〇	レ	レ	
二〇四八	四四八	九	一	三八二	五三〇	七二五	九〇三	九一〇	一四五	一三二〇	レ	レ	
四一八五	八〇一	五	二	三五五	四三八	四五三	四八八	五〇二	五二八	五四五	レ	レ	
	一九四二	〇	一	九〇五	一七一	一四一	一七二	一八〇	二六五	二五七九	レ	レ	

外務省

I-0855

0021

セイスク	五九	八三	二五八	一一一	五二一
サハレン縣	五二	八〇	二二八	一一三	四八三
シンチンスク縣	四八	五九	一八三	九五	三八五
計	一九二	一九一〇	六八九〇	六四八	一三六四〇

本信寫送付先

在中公使、北平首席、奉天、吉林、哈爾濱、長春各總領事領事  
 朝鮮總督、咸南、咸北各知事、間島派遣員  
 朝鮮軍、第十九師團兩參謀長、朝鮮憲兵司令官  
 羅南憲兵隊長、延吉連絡班  
 關東廳警務局長  
 管下一般

備前ヨリ産業企業數、二百五十餘テ、雇傭勞働者ハ五萬  
 ニ及シテ、此レニ在種企業ニレテ一萬四以上ノ固定資本ヲ  
 有ル者ハナイ

外務

(日本標準規格B5)

7.2

I-0855

0022

機密第一七一號

昭和六年二月二十日

在哈爾濱總領事 八木元八

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

ハバロフスク高麗共產黨本部ニ於ケル黨員ノ  
會議開催狀況ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ露領「ハバロフスク」ニ居住シ本月初旬同地ヲ出發  
超境逃走シ來タル鮮人金元滿ノ語ル處ニ依レハ本年一月二十四日「  
ハバロフスク」居住高麗共產黨員ハ黨本部ノ指令ニ基キ當日「モス  
コー」ヨリ派遣ニ係ル鮮人朴昌玉ヲ議長ニ推シ黨員朴昌極外百七十  
名參會會議ヲ開催セシ由之カ議事内容等左記ノ通り何等御參考迄ニ

外務省

報告ス

記

一 一九三〇年度ニ於ケル露領内居住鮮人ノ國外脱走ニ關シ其原因動  
機等ニ付調査ヲ遂ケ中央政府ニ陳情之カ防止策ヲ講スル事  
一 沿海州居住鮮農ニ對スル穀物買收制度ノ不徹底ヨリ起タル鮮農歴  
迫狀況ニ付陳情スル事  
右ノ外鮮人黨員ノ資格ニ關シ或ハ鮮人黨員ノ鮮内派遣等ニ關シテモ  
討議スル處アリタル由ナルモ何等具体的決議ヲ見ルニ到ラスシテ散  
會セリト

本信寫送附先

在中華民國公使 在北平首席

在奉天 上海 吉林 哈府各總領事

外務省

I-0855

0023

亞細亞局

昭和六年十二月廿一日

別紙 附 送 受 領 書 附 封

昭和六年一月二十日

在滿龍日本駐領事令



別紙附封  
上旨事候  
付致  
至少亦

收受係

此等事候係予の志示ノ執了ノ次第候テ  
別紙一部及送付致之件一ツ宛以テ申上ル  
事候

文  
收  
係

亞細亞局

昭和六年十二月廿一日

接 受 領 書

機密公第四四七號

昭和五年十二月二十日

在 海 龍

分館主任 松浦 典

外務大臣 岡 野 齋 歸 原 喜 重 郎 殿

管下共産黨状況ニ関スル件

本件ニ関シテハ、昭和五年十月二十日附機密公第四四七號  
信ヲ以テ及報置置ノ処、其後管下諸人共産黨ハ  
其党組織ノ形力衰進シ加ヘ且其勢力ニモ亦多少ノ消

I-0855

0024

長クモセルカ者領入キル情報、依ル人志、十月中旬首  
 下海龍縣四八石柳河三海衛清多系山域、根拠ヲ  
 有ル人共産黨幹部約二十名、清多系南山域子三  
 石房、集会シ、救党指、此ノ方法及党組織改善等、  
 就テ根拠層々南キル結果、共産黨青年同盟か  
 往來、幹部ノミ、共産化セシムル方針、極メテ根拠ヲ  
 ナス満ガ、打テ幹部共産化運動、共産主義、救党、  
 目的、反ストノ意味、下、今日迄及共本系支即、  
 ン吉林省寧古塔、根拠ヲ有ル中、共産黨、清多系、  
 員會、加込タルトシ、決、後、其ノ組織、中華、  
 正域トシテ共産黨ノ部、及、下、ヤチ、  
 ヲ置キ、野ハ、部長一名、幹事二名、ヤチ、  
 小胆若干名、指導隊員四十名以上、探險隊長一名、  
 隊

員十五名以上、此、  
 ノ数ニ、  
 備フヘク、  
 大身ノ方法等、  
 常、  
 在ルカ如キ、  
 ノ潜行セル事實、  
 ハ、  
 或、  
 入、  
 党、  
 器、  
 下、

I-0855

旧武蔵系不逞者ノ第一物アリ又支那官家ノ圧迫ニ等相  
 備糧難セン状態ヲ形成シテ了  
 今海龍柳河清平ニ對シ吾人最近ニ於テハ  
 跡ヲ見ルニ大槓左ノ如シ  
 一海龍柳ニ於テハ共產黨状況

本邦ニ於テハ共產黨跳梁ノ範圍ハ三八石四石及清平柳河  
 附近ニ亘ル一帯ニシテ其本拠ヲ四石ニ置キ常時<sup>時</sup>前記地方  
 野人部隊ノ出發シ入寇シ迫ル或ハ全區ヲ掃蕩スルニ當  
 リ支隊セル多矣故に全ク掃蕩セルニシテ不勤又ハ一戸當  
 リ物一支隊一宛ノ虎黃納入方ヲ強要スル等暴行ヲ敢テ不  
 本年五月中ニハ在四人石野人學校教師金以珠又今七  
 月ハ今地は偽樺某他一人共ニ日本官憲ニ密偵トシテ  
 殺傷シ次ラ去ル十月十七日本隊下水道子ニ於テ宋信自

動者ヲ掃蕩シ支那人乘客一名ヲ射殺セル事件等ハ當時既報  
 ノ通ナリ

右	中不共產黨滿州省委員會海龍縣長	李基鳳	(三三才)
右	幹事	沈昌成	(三〇才)
右	李浩信	(不詳)	
右	遊撃隊員	金基元	(三四才)
右	金陳平	(三七才)	
右	朴贊文	(三一才)	
右	金成道	(三二才)	
右	金永善	(三一才)	
右	金龍吉	(二三才)	
右	鄭淵三	(三七才)	

I-0855

0026

右	鄭 淵 九 (二一才)
右	右右非三十一名氏名不詳
右	ヤチチノカヨフニ名氏名不詳
右	小組員 権 重 錫 (二二才)
右	外三名氏名不詳
右	探險隊長 金 某 (一五才)
右	員 十四名氏名不詳
右	二 柳河原ノ村ニ共産党状況
右	南河原ノ共産党本部ヲ来ル者氏名同置(右名新氏名)
右	一名ノ下ニ三河村ノ中心ニ一帯ノ地ニ暴威ヲ逞フセル
右	本ノ中ノカト由農民間協會ト改稱シ(全備各地農民間)

中国農民協會ト合同シテ組織民衆  
 同進ト稱シ 加邊者ハ同地ニ青壯年ノ強トト全部ヲ同進ニ  
 其數約一千名(主トシテ三河村及山子五邊内約七百名及  
 通化附近河三百名)ト記セルニ維持費トシテハ青壯年  
 一名ニ對シ毎月現洋三拾仙老人及回捨仙婦女子及二拾仙  
 ヲ支給シ比較的鞏固ナル組織トシテ其勢力毎ニ可カラズモノ  
 了リカ偏々本年十月一日仲秋節當リニ三河村ニ於テハ支那  
 官憲ノ共産党見方檢査ヲ行フ十月二十日此後密偵三八  
 ニ名檢査者進)トシテ未ダ其勢力俄ニ衰ハズ今五劫ノ  
 有様トナリ幹部等河ノニ進走スルヲ晦メシラン其不悅  
 者相繼キ且黨員中ニ元漸次及去ノ義ニ反對スルモノ漸  
 増シ(過半数)目下純黨員トシテ其器ヲ推テ帶レテ活動  
 シ信者四十名進走スルモノ支那官憲ノ取締嚴  
 重ナルヲ憂フハ山岡ノ階ノ取子ノ出ラハズ我ノ支隊

I-0855







志隆 限平

I 4. 5. 2. 3-10

照会運用

機密公第六四號

昭和六年一月二十八日

在吉林

總領事 石射脩太郎

外務大臣 野村 廣 喜重郎 殿



朝鮮人共産黨員朴振ノ行動並身元經ノニ関スル件  
本件ニ関シ當館ノ諜知シ得タル所別記ノ通り報告申進  
ス

(十二月二十七日付密信機密公第六八八號参照)

本信寫送件先 奉天、哈爾濱、長春、海竜

関東長官、朝鮮総督

第三線

昭和六年貳月六日 授受 BI

本邦共産党員  
朝鮮共産党員

中国共産黨員朝鮮人朴振(田世光)ハ吉林ヲ中心トシテ各地方ヲ  
徘徊シ共産主義宣傳ニ従事シツツアリ客年十一月下旬哈爾  
濱ニ於テ李鍾洛、金光烈等カ朝鮮革命軍司令部(元吉林省指  
揮部)ヲ組織スルニ当リ該密議ニ参加シ政治部委員ニ擧ケ  
ラレ其後同年十二月下旬永吉縣五里河子ニ於テ各地朝鮮人  
代表者集合シテ農民協會籌備会ヲ開催セル際中共党滿洲  
省委特派員支那人康山ト共ニ指導者トシテ之レニ臨席シ  
タルコトアリ其後中共党ニ加入セルML系人物等トノ  
間ニ反感ヲ生シ同派系人物ヨリ滿洲省委ニ對シ中傷的報  
告ヲ受ケタルヲ以テ磐石党部責任者タル實弟朴鳳ト善後  
策協議ノ為メ十二月二十四日磐石ニ向ケ分發シタルコト  
ハ既報(十一月二十七日付機密公第六八八號)ニ置キタル處ナルカ當時

BII

I-0855

0030

朴鳳ハ他ニ旅行不在ノ為メ面会出来ス又前報黒石鎮居住支那人馬賊頭領趙秀山ニハ同地ヨリ安否問合セノ書面ノミヲ送リタル由ニテ聞モナク敏吉シ亦月七日頃更ニ五常縣ニ向ケ分發シタリ其要務ニ就キ内査スルニ磐石縣城居住朴根植(無免許医一名春圃)トハ豫テ友人ノ間柄ナルカ朴根植ノ実弟某ハ以前五常縣地方ニ居住シ水田經營ヲ為シ居タルモ客夏頃疾患ニ罹リテ出吉シ暫ク当地東洋醫院ニ入院治療中ナリシモ全快ノ見込ナキヨリ送院シテ朴根植方ニ於テ静養中去年十二月死亡シタルヲ以テ朴根植ノ実弟カ五常縣内ニ於テ聖啓セル土地ノ處分及債権取立等ニ就キ朴根植ヨリ依頼ヲ受ケ同地ニ赴キタルモノナリ而シテ亦名ノ身元至了等ニ就キ内査シ得タル處左記ノ通り

咸北鎮城生

記

田世光コト 朴 根

三十三年位

今ヨリ約二十年前間島ニ渡リ延吉縣所在省立師範学校ヲ卒業シ後廣東ニ赴キ黄埔軍官学校ヲ卒業シ昭和四年八月頃來滿シ磐石縣城解人私立模範学校教師ヲ奉職シ居タルカ此地ニ在リテハM.L派ニ投シ宣傳文ノ翻譯等ニ從事シ居タルモノナリ其後M.L系トノ關係ヲ絶テ中共党滿洲省委ニ加入シ時々吉林ニ出入シ専ラ主義宣傳ニ没頭シ居ルカ当地ニ於テハ支那人同志ノ密会場タル新聞門裏中西飯店(客年八月頃廢店)其他ニ轉々潜伏シツツアリタリ

# 北満不逞鮮人の團結は 早くも絶望となる 韓族總聯合會つひに分裂 一九三一年に於る不逞團の展望

昨年度において極度の支那側の弾壓と戦ひながら根強い進行運動をつづけて来た北満の不逞鮮人共産黨が一九三一年度においていかなる發展過程をたどるかは一時的に注目されて来たが、最近もたらされた有力な材料はすべて彼らの内部分裂の分裂を物語らざるものではなくその内部的闘争はこれらの主義的運動を根柢から駄目にせんとしており宜しき方面でもすこぶる重要視してゐる。

**東支の** 東部沿海に集まつて根強い活動を持続して北満のナランワン韓族總聯合會の幹部の行爲は最近漸く露骨化して來たため地方農民の同會に對する反感極めて激昂し種々の非難を浴びてゐたが同隊の唯一の義勇隊であつた本部別動隊員一同はつひに會の過去、及び現在の非行を列擧し露骨にこれを脱退聲明するものを出し、今後會と對抗して布するとともに今後會と對抗しての脱退聲明書が當地鮮人間にも配布されたがそれによると同會が今までいかに未練たが名にかくれて隠匿することをしたかを露してゐる。

**細胞的** 天職を益せず非社會的感情により協助一致せず社會の機能が全語構等、現患的満足を得ず猜疑、詐欺、分裂

發達はわが社會全體を如何に侵蝕してゐるか懸念する立場に直面せる韓族は自以來今日にいたるまで民衆と顯著なる關係なく顔死にふる露骨のごとく形容し能はざる疑いをいひ、責任者は革命系統より別れたる行動を本組織より、織したる行事を以つて地方協會員を無罪に拘執脅迫し軍人宿所に兇殺し、故自治同志の復讐を口實に暴行をなし私利を伸し、各協會より取締した露骨の義勇隊の米お、及び中絶期成型を濫用したこと露骨より移住した鮮人の金銭を強奪し、擧げ酒に浪費したること手裏の者に上つて良心を失ひ、故に金銭を奪ひ、強奪したと故に、いともないこれらの行は、

**極刑に** 處するも余りあるもので主任らは同らの反省なく半數未満の非法的執行委員會

新聞 昭和六年一月三十日

亞細亞局

機密公第八七號

昭和六年二月七日

在吉林

總領事 石射猪太郎



外務大臣男爵幣原喜重郎 殿

南滿鮮人主義者間ノ内訌ニ関スル件

本件ニ関シ当館ノ謀知シ得タル所別記ノ通り報告申  
進ス

本信專送付先 代理公使北平、奉天、長春、海竜、通化、鉄峯

関東長官、朝鮮總督

別紙添付

昭和六年二月六日 機密 BI

吉澤 湯平

南滿鮮人主義者間ノ最近消息ニ就キ謀知シタル如ク依レハ  
 寬甸縣地方ニ於ケル反國民府派(國民府政造派トモ稱ス)内部  
 ニ亂離起リ高嶺信(目下吉林ニ在リ)ヲ中心トスル金錫夏、李成  
 根、李允煥等ハ中共党加入問題及農民協會解散ノ組織問題  
 等ニ関シ一般同志ト俱体的討論ノ上多數決ニ從フヘキコト  
 ヲ主張シタルニ對シ共產主義者朱蒼、李成相、安圖亨(李、安、兩  
 名ハ元李允煥ノ部下)等ハ中共党加入ハ個人トシテ加入スル  
 モノナレハ中共党ノ理論及政策ヲ承認セハ直チニ加入スルヲ  
 可トスヘシトテ双方激論ノ末一月十六日夜朱蒼、李成相、安圖  
 亨等ハ四十餘名ノ匪人及四百餘ノ農民ヲ煽動シテ自衛隊  
 ヲ組織シ金錫夏、李成根、李允煥外一名ヲ銃殺シタリト云フ尚  
 興京地方ニ於ケル國民府ニテハ該縣當局トノ交渉ヲ誤リタ  
 ル為メ驅逐セラレ同府中央本部ヲ清原縣ニ移駐シ幹部等ハ  
 同地ニ引越シタリトノ説アリ

右謀知ノ儘

I-0855

0033

亞細亞局

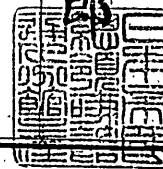
機密第三三號

昭和六年二月十日

在通化日本總領事館分館

副領事

興津良郎



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

鮮人共產黨員、行動ニ關スル件、

雷館管内哈呢河地方ニ蟄居スル中國共產  
黨滿洲省委員會通化支部ニ屬スル鮮人共產  
黨員幹部李龍宇以下約千餘名ハ昨年未

J4. 1. 2. 3-1

志原抄

通東方面進出ヲ企テ種々策動シ居タリカ客年

十月中共幹部金成福金永濤等輯安地方ニ

ON

於テ國民府員、為メニ暗殺セラレタル為メ一時頗  
挫シ居タリ模様ナルカ國民府ノ存在ハ全黨  
通東方面進出、障礙ナリト、見地ヨリ最近  
全方面ニ於ケル國民府員ノ掃蕩ヲ期シ且ハ自  
黨勢力、伸張ヲ企圖シ夫々準備中ノ噂アル  
屬全方面ヨリ東進セル者、談ニ據ルハ四年未  
ヲ期シ行動ヲ開始スヘク目下夫々準備中ナ  
リト  
引續注意中ナルモ不取敢情報々告ス

本信寫送附先

奉天、吉林、安東、鉄岑、海龍、各公館長

I-0855

0034

亞細亞局

昭和六年朝鮮秘第七一號 朝鮮總督府警務局

第二〇五  
昭和六年五月廿一日

朝鮮共產黨員全珠、朝鮮共產黨  
狀況報告ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ一月十六日附在哈爾濱派遣員ヨリ  
左ノ通り受報セリ御考査迄

本書發送先

國務省朝鮮部長  
外務省朝鮮部長  
天津海軍公使  
安東、鉄空、領事

朝鮮軍司令官  
各道、各派、遺、員(除哈爾濱)

記

朝鮮共產黨員全珠、哈爾濱總領事館政治局、組織部及特  
別部合同會議ニ於テ朝鮮共產黨ノ狀況ニ関シテ為ニタル朗  
讀報告文(露文)入手セリ以テ記出ス  
尚、謀者カ從前ヨリ報スル所ニ依テハコミンテルン、朝鮮ニ對シ新  
戰術トシテ朝鮮内ニ於テ今春ヨリ間斷同様ニ暴動ヲ惹起セシム  
ル目的ヲ以テ現ニ準備進行中ナリト、コトナリシカ右報告中ニモ  
赤軍並ニ積極的戰闘行動ノ編成準備ガ開始サレシカ、朝鮮内  
各地並ニ國境地方ニ赤軍内ニ於テ軍務ヲ卒ハタル同志ヲ派遣  
シ、ソノ旨其他之ニ類スル事項ヲ各所ニ散見スル点ハ特ニ注  
意ヲ要アルモノト思料セラル

I-0855

0035



一九三〇年十二月二十四日哈爾濱政治局内  
組織部及特別部の合同會議に於て行は  
れたる同志全珠の朗讀報告

現今朝鮮共產黨の党方針は朝鮮内に於ける準備運動  
が局部的欠陥を有するにも拘らず之に安んじておろかプロレ  
タリア組織のこの準備運動からものは朝鮮民族の革命化  
の急速するテンポを適宜利用する上に於て最も重要な  
役割を演じておねばならぬのである 軍事作戦部は春期を  
期として朝鮮に於ける日本政府の事業を攪乱し以て幾分  
なりとも民族的権利を獲得すべく愈々積極的行動を開始  
するが予定であったが一部の同志が逮捕されたため党の  
事業は再び初期の状態に幾分後戻りしてしまつたといは

言へば朝鮮プロレタリアートの事業が熾盛することを意味  
するものにあらずして逆に我々は之等の過誤に省み壓制に  
對してより現実的な新攻撃を組織せんとしてあるのである  
現在に於ても又過去に於てもこの問題は表面にこそ現  
はれざりしとは言へ党部内に於ては常に蒸返されて来た  
ところである

朝鮮民族の闘争に於ては二つの陣地が存在してゐるが  
この二陣地は形態こそ異水何れも憎むべき制度の倒壊を  
ふその後局の目的を一にするものである 衆知の如く朝鮮共  
産黨の最も積極的な活動としてある革命的な地方は第四  
區(國境地方)であつて從來中央委員會の全注意はこの地  
に傾注されて来た 本地方に存在する組織は作戦委員會  
とハンサリム党(註)の二つであるがこの二団体は常に相対抗



し合て来たものである。最近この関係は何れも一般の政治的影響を受け、ハナサリム党は支配権の掌握に作戦委員會は大衆を組織する積極的行動に全力を傾注し之を通じて帝主主義に對する政治的戦線を統一しようとしてゐる。而して作戦委員會の最も重要視してゐるのは戦闘力の組織化であるに對し、反對派即ちハナサリム党は之を軽視し日本帝主主義の積極的闘争には漸進的に接近すべきことを主張し、一方原則に於て先決問題は民族的團結なりとし、斯る宣傳を無辜の住民間に行つてゐる。然るもそも日本が妥協の假面を冠り合法的方法によつて活動するこの反對派は特に智識階級から編成されてゐるものであり、而も第二インターナショナルの似而非社会主義的看板を掲ぐるものであり、彼等は鮮内に於ては地

方政治機關に於ける代表権を利用して、朝鮮民族の忠誠を日本の社會に是認せしむると共に之に依つて社会的勢力を掌握し之を通じて主権を奪取するに全力を傾注したハ斯る生暖い政策は彼等の全黨員を殆んど満足せしめ得てゐないのである。作戦委員會はこの点に着眼しこの関係内に割込んで其処に特殊の分離作を設け、この分離作を以て反對派内より積極分子を誘致して、中部朝鮮に於ける革命組織の幹部を補給せしめ、青年を以て戦闘部隊を編成せしめ、指令の通り実行す。中部朝鮮に於ける革命運動の機運を助成せしむるために煽動やチエーカを煽成せしむることもなかつた。申すまでもなく朝鮮プロレタリアートの日本に對する積極的行動が沈滞した時代もあつたのである。世界的情勢も若くは日本官憲の輝煌

彈壓が然らしめたるのであつて南北滿洲に於ける日本官憲  
が多少に拘らず朝鮮プロレタリアートの積極的行動の脅  
威を一時たりとも感ぜざりしが如きことは先づなかつたと言  
ふ得べく之に依りて見るも部隊にまで成長した闘争や  
チエーカが從來絶えず存在してゐたことは明かであらう  
今回朝鮮の党中央委員會の懇請に依り赤軍並に積  
極的戦闘行動の編成準備が開始され水之川が為に鮮内  
各地並に國境地方に赤軍内で軍務を卒へたる同志を  
派遣し、まことに第四管區に経験ある軍政治指導員  
多数を向け同地を中心として鮮内に濃厚なる網線を張  
らんとした

今日まで党指導の主任には中央委員會より同志サハムス  
ニン (Canner Collin) が任命されておたつてあるが、今氏は軍

事指導に経験なく準備事業に於て局部的失策を  
演じこの失策に就ては既に中央委員會にも報告され  
たところである。作戰委員會は同志サハムスニの無能  
から第四管區に對し日本政府が進撃を行ふことを逸  
早く豫想したるであつたが、その水が事實となり党列は切崩  
され、委員は檢舉され、指導機關は多大の痛手を蒙  
り、至り斯くして第四區に於て行へる同志サハムスニの  
失策は愈々覆ふべからざるものとなつた。この問題は中央  
委員會に於て大問題となり指導の一般戦術を再審査  
し且つ武力を以て全鮮の党を指導するためその指導主任  
に高級な軍事経験を有し且つ本地方の情勢並中央諸  
使命に通ずる同志金を起用するの必要が喚起され、に至つ  
た。茲に中央の諸使命と言ふは朝鮮中部の革命的諸

組織を準備し統一するを、就中第四管區に外部からの打撃力としてインターナショナル部隊を組織することであつてこのインターナショナル部隊は日本政府の對露態度が軍事行動化するモメントに於て姿を現はすべきものである。沿海沿河に配置されておる鮮人師團第四聯隊は一方足場としてインターナショナル部隊の直接指導下に有事の際には直に出動するものである。

中央委員會軍事作戦部と地方との密接なる連絡を設けし且つ行動の一致を期するたがいに同志金は來る一月十日第四區地方から諸隊の政治指導員及細胞書記を召集して會議を行ひその會議に於て根本的諸使命が決定せらるべき筈である。朝鮮民族特に朝鮮に駐屯する日本軍部内に朝鮮民族の自決思想を鼓吹すべくと

交通路、保壘等を破壊する為党部隊の戦闘計画を炸製すること、工業を奪取する等がその水である。更に又現地に於ける鮮人諸組織に依つて朝鮮の中央に於ける戦闘諸力を組織する必要ありとの議が提起されこの議が中央委員會の組織部に反響を起し、動員部を組織することを考へた。この動員部は中央委員會の軍事作戦部に從属しその機能は朝鮮中部に於て動員を行ひその水に依つて積極的行動に朝鮮民族を(中国及ソウエートロシアに於けるものをも)誘致する外現地に於ける暴動準備朝鮮民族の武裝的準備を組織的に指導し暴動を行ふため回避し得ざる日露の外交的決裂を認むべきものである。尚朝鮮の中部に於けるこの動員部の活動と並行して作戦委員會がハニサリム組織に對して行ふべき機能として自

I-0855

己の中央機關の行動に不満を抱く作戰委員會の勢力を扶植し且つ日本官憲と共同動作を執りつゝあるものを利用し日本官憲の活動及其の諸施設に關する諜報を得べきことが課せられてゐる

朝鮮人民の党的活動に對する態度は之を二つに類別するべしと出來るその一は資産階級及中産階級であつて何れも現在に於ては世界的諸條件が複雑化した結果一階級が他階級に敵對するとは不可能であるとなしそれ故に一般的趨勢には従ふが直接之に參加しようとはしないものでありその二は党派心なき下層大衆であつて之は大部分革命的青年に味方し且つと言ふ場合にはそれ相當の考へをなす人々である斯る現實に基いて中央委員會は日本官憲の勢力圏外の地域に特殊の軍事部隊を編成す

る方法により革命運動に民衆の力を主として青年を利用すべし計画を作成中である中央委員會の全活動は斯る形に於て行け水るのであるがこの外に次々如き諸事業を發展せしめつゝあるその一は党著作物の出版及配布と現地に於ける党指導の組織その二は朝鮮の反政府力の積極的行動の助長及指導その三は解放運動に積極的に參加し得る諸要素の團結化等である

一般には中央委員會は帝國主義倒壊のため民衆の力を自己の味方に引着けることに全力を傾注してゐる就中重要なものは朝鮮の運動を世界革命と結びインターナショナル的諸力を自己の隊列に引込むことである之がために中央委員會は極東局に對し極東局の管下の諸組織に適當なる指令を發して本事業に直接參加せしむるやう交渉中である

I-0855

即ち現地に於ける代表諸機関として謀報連絡方面の事業を行はしむると同時に現地に於けるインターナショナル部隊の編成を容易ならしめまた中共共産党と馬賊との連絡を設定し更に中共共産党員を中共軍に入隊させ守備隊司令部との連絡を執り外中共軍の費用に依つて彼等を武装せしめようとするのである。現地に於ける党の行動の連絡を大きくするためソウエトロシアより派遣される党指導員を熟練せしむる必要あるため之等の指導員は議決権を有する有力党員として地方党委員會に配属される筈である。之等の指導員には組織的細胞を通じ或は自発的に彈藥庫の配置状態、或は兵法の見地に於て地理的事情に通曉するべき義務が課せられる。又社會的地位を得てゐるものと接近し必要な場合そのも

の地位を利用して現地に於て積極的行動を開始せしむる場合彼等の反対行動を切崩すことも義務の一つである。之を要するに中央委員會並に下層大衆指導機関の現下の金融動力は金融的絶暴動の下準備に集中せしめられるのである。而して朝鮮に於て革命的諸層が現存するたも拘らず懸念充實した勢力が欠除してゐるとするならば、水は現地に於ける努力と規律が足りないとあらば、之を除くために紋々は今回ソウエトロシアに於て地下的事業を研究する優秀な學校を卒業せる諸同志を遂に派遣してゐるのである。

### 註 ハンサリム党

(次に記すは謀報ハンサリム党に關し調査註釋を施すものなり)

ハンザリム党は一九二七年東京に於て樹立せられ一九二〇年四月十五日まで第一インターナショナルに属した一九二〇年四月十五日の大會で第一インターナショナルを脱退しコミンテルンに加盟する事とした決し一九二〇年十月十一日のコミンテルン大會に同志を派遣した大會が十月二十日の會議でハンザリム党の提出せる議案が審議された結果同党を韓人社會党に合同せしむる事に決定した韓人社會党は一九二七年コミンテルンより浦潮に於て設立されたものでロシア共産党の規律及綱領を基礎とするものであるがコミンテルンの決定後同党は一九二七年まで合同して活動し來たがその後トロツキズムに偏して右傾政策を行ひ遂に右傾派に組しその水がため右傾派又はトロツキー派と称するに至つた

茲に於て韓人社會党はハンザリム党と再び分裂するに至つたが現在韓人社會党はハンザリム党内に存在する自党の共鳴分子を通してハンザリム党を利用しつゝある

日不...  
鮮人...  
...

昭和六年正月廿...

機密公第一七號

昭和六年二月十八日

在海龍

分館主任 松浦



外務大臣 岡野 幣原 喜重郎 殿

鮮人共産党員ノ横行ノ関スル件

富館山 賊子 出張所ヨリノ報告、依ルハ本月十五日午前六時二十分頃同地東南門内鮮人雜貨商三興號商會(店主金善桂方、自稱共産党遊撃隊員二名侵入シ店主、對シ吾等ハ共産党司令部ノ命、依リ負民救済金募

(分館工々ハニ、三-10)

集、局 激遣セシタル者ナリトテ拳銃ヲ擬シ現大洋一千元ノ提供方ヲ迫リ賣溜金現洋六十元ヲ奪取シ去リ更、各地東街協興精米所、且リ各様ノ手段ニテ金品ノ提供ヲ迫リタルも各精米所主鮮人李相炎ハ事前身ヲ隠シタルヲ以テ被害ナカリシ処當時急報、接セル各所桂田査外一名ハ直ニ前記被害者方ニ至リ現場ノ踏査スルト共、被害者、就テ詳細取調ノ結果匪賊等ノ立廻ルヘシト覺シキ東街廣信精米所(店主金孝三)ニ到リ内偵セル、該匪賊等ハ恰モ各所事務室内、該所員ヲ脅迫シ金品要求中ナリシヲ以テ直ニ所員ニ避難方ヲ命スルト共、一方

I-0855



匪賊ノ逮捕ニ及ハントセル際匪賊モ亦之レテ感  
知レ双方拳銃ヲ以テ交戦スルニ至リシモ遂ニ  
匪賊ノ逃走セレタリ其交戦中彼我何レ  
ノ流弾ノ命中セルモノカ不明ナルモ在所莫山崔  
恒同ハ左上膊骨ニ全治約四圓貫、貫通銃  
創ヲ受テタリ

前記交戦後支那側公安局ヨリモ應援隊  
未ク快力匪賊捜査ニ努メタルモ遂ニ彼等ノ  
逃走セシメタル処該匪賊等ハ海龍縣四八石  
ニ根拠ヲ有スル李超鳳一派ノ如ク思考セラレ  
目下支那側ト協力捜査中、以テ尚檢証  
並實情調査、為同日密館山本警部  
同地、派シ一方海龍縣長、對シ口頭ヲ以テ在

留民保護取締一方嚴飭方要求ニ置キ  
タリ

右不取敢別紙檢證調査添付報告ス

本信寫送付先

奉天吉林鉄岭通化撫順各公館  
長 朝鮮總督府及關東廳警務  
局長

I-0855



檢證調書

共產黨員強盜被疑事件ニ付昭和六年二月十五日海龍縣北山城子東南門裡ニ興陽商會ニ於テ司法警察官外務省警部小本安三郎ハ金善柱ノ立會ヲ得テ檢証ヲ爲スコト左ノ如シ

一 場所ハ海龍縣北山城子東南門裡ニ興陽商會内

一 被疑者 昭和六年二月十五日午前六時三十分頃右場所ニ侵入シテリ全商會主任金善柱ニ對シテ「モトヤル拳銃第一弾ヲ突キ付ケ自分等ハ共產黨第八隊員ナル処今同司令部ノ命令ヲ受ケテ貧民救済金ヲ募集ニ来リタルモノナリ」就テ「汝モ現洋幣千九百圓供セト」ト迫リタルモ現金ナクシテ「ミツ」拒ミタル処然ラハ殺意スレト脅迫シタル爲被疑者ハ仕方ナク物品賣上ケテ現洋幣六百元ヲ提供シタリ然レ、賜「出」四十元ヲ要求即チ合計百元ヲ提供方々迫リタルニ在会無キ旨哀願シタルニ賊其衣裏口ヲ何レニカ逃走セリ

一 現狀ノ模範標ハ別紙圖面ニ画リ

一 被疑者ハ二十三歳位ノ支那服ヲ纏ヘレ解人ニ名ナリ

一 被害前ノ模様

被疑者等ハ二月前ヨリ全地市街ニ侵入シ強ク恫ヒツ、大膽ニモ舊年未ニ際ニ中國信託ノ警戒裡ニ本行動ヲ敢行シタルモノト思料セシレ全地公安局長ヲ訪向シ上棟査逮捕ニ務メラレシキ旨交渉ニ置キタリ

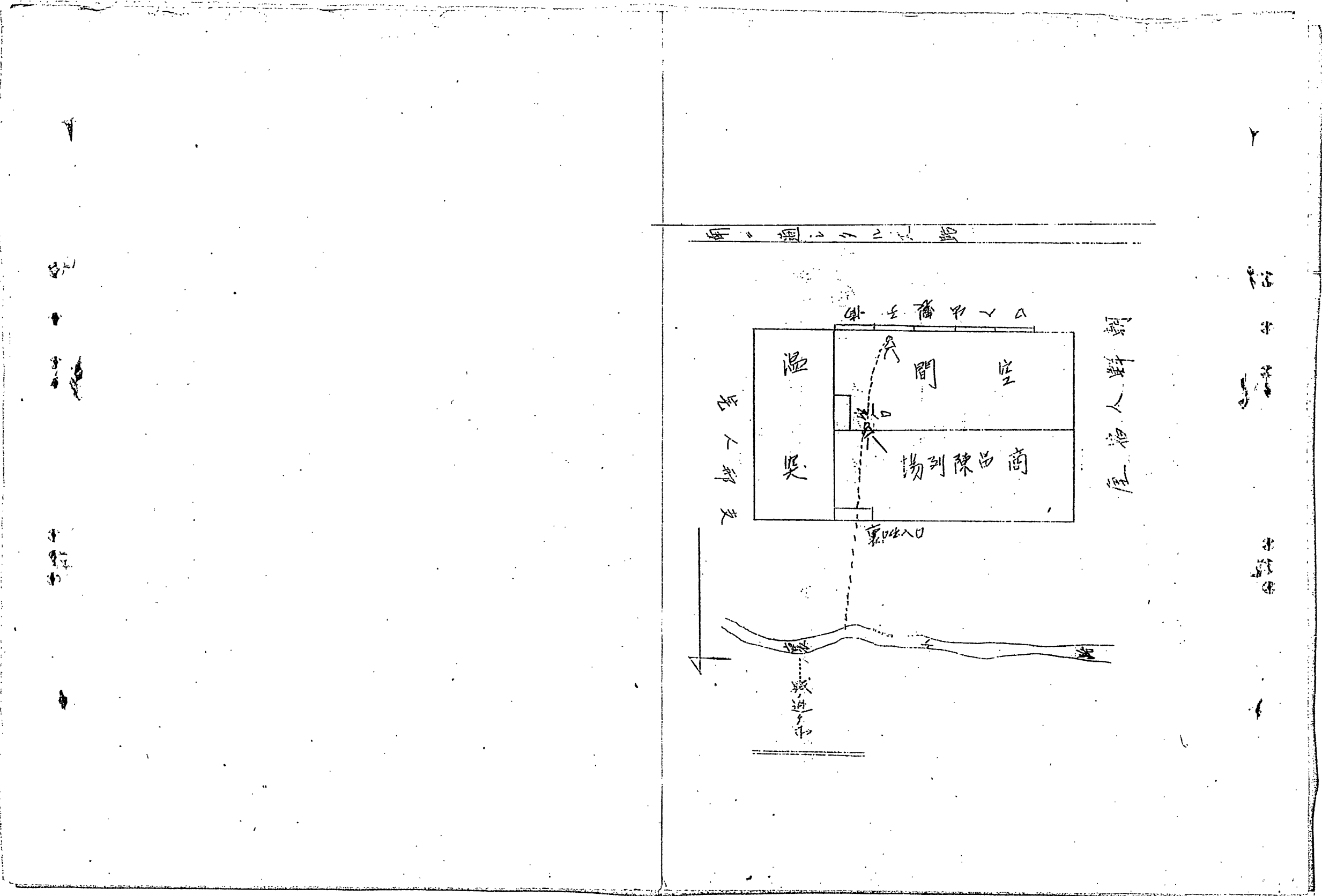
一 此檢證ハ本日午後五時ヲ始メ六時ニ終ル

右現場、於テ此ノ調書ヲ作成シ立會人ニ讀聞ケタル処相違ナキ旨申立共、署名捺印セリ

昭和六年二月十五日

於海龍縣北山城子東南門裡

在奉天總領事館海龍分館警務司法警察官外務省警部  
 立會人 山本安三郎  
 金善柱



I-0855

0046

檢證期書

銃傷事件之件昭和六年二月十五日海龍嶽北山城子東街に於て  
司法警察官外務省警部山本安三郎、金孝三、立會を得て檢証  
ヲ為スコト左ノ如シ

一、場所、海龍嶽北山城子東街廣信邸精米所内東方に接シタル處ナリ  
二、被害者ノ様相

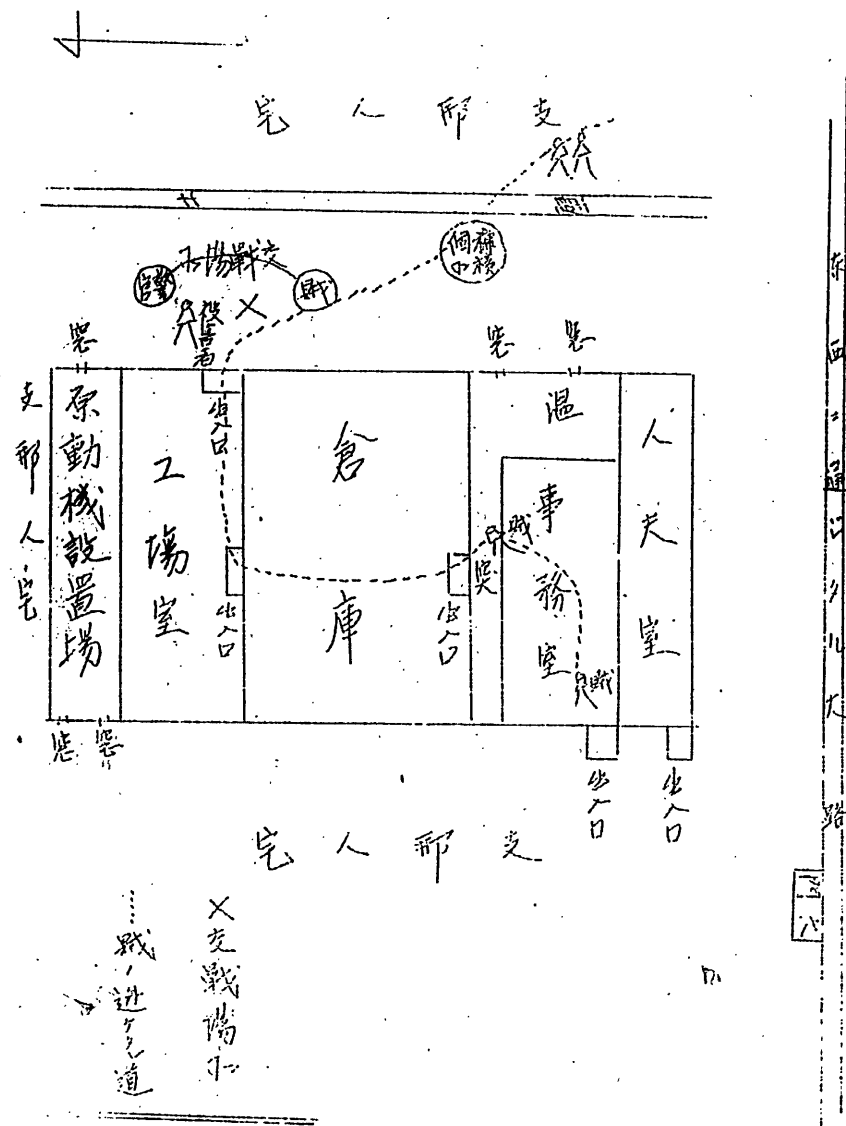
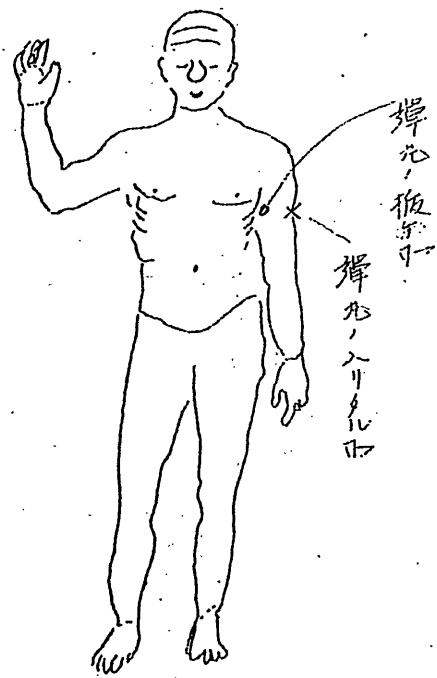
被害者崔恒同、廣信邸精米所ノ雇傭人ニシテ昭和六年二月十五日午  
前七時頃合精米所事務室に入室ニ於テ就寢中突忽聲ヲ聞テ所持  
セシ金三ノ解人侵入ニ來リ在室中ノ者ヲ全部起シル上合精米所主任金  
孝三ニ對シテ金三ノ強要ヲ迫リ居ル際日本警官ノ襲來ニ依リ先戰  
ヲ始メタル際其ノ中間ニ這入り身ヲ避ケトシテ銃彈ヲ受ケタルナリ  
三、創傷ノ個所、左上膊骨ヲ外側ヨリ内側ニ貫通骨折セルモノニテ  
醫師ノ鑑定、依レハ全治迄約四週間ヲ要スル見込ニテ

四、現場及創傷ノ様相、添付圖面ノ通り  
五、被疑者等、合精米所栗側土堀ヲ越エ何レカ逃走セルモノナリ  
六、此檢證、本日より午後四時ニ始メ全五冊ニ終ル  
右期書ヲ作成シテ通事ヲシテ後向カセ共、署名捺印セリ  
昭和六年二月十五日

取調場

在奉天總領事館海龍分館前務  
司法警察官外務省警部山本安三郎  
立會 人 金 孝 三  
通事 外務省心査 成 智 備

I-0855



I-0855

0048

亞細亞局  
機密公第 三 八 號

昭和六年二月二十日

在海龍

分館主任 松浦



外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

去函出天

鮮人共產黨員ノ横行ノ関スル件  
當館北山城子出張所ヨリノ報告ニ依ルニ本月十七日午  
後四時頃北山城子合茂精米所(店主鮮人河鍾岳)  
方、假寓ニ居レル東亞日報支向記者崔英春、同人  
ヲ訪レル鮮人ニ名ト口論ノ末格闘シ前記ニ名ノ爲  
頸部、長サ約五寸餘ノ釘ヲ打マレ重傷ノ負ヒ公

日午後十一時死セシル事件勃發シタル処當時急報ニ依リ  
該被害現場、馳セ付ケタル同地出張所桂田査外一名  
ノ内査スル処、コレハ被害者崔ハ本年一月下旬開原縣(以  
下地名不詳)ヨリ同地、移住シ来リ東亞日報支向ノ入リ記  
者トナリタル者ニシテ開原縣居住當時共產黨ノ加盟シ左  
隣財務員トシテ活動中、党ノ金ヲ着服逃走シタルヲ  
以テ全党員等ヨリ被捜査中ノ者ナリレ由テ前記加  
害者モ左黨員、非<sup>アラ</sup>ズト思考セリレ曰下極力捜査中  
ノ趣ナリ

右様、謄調書添付一應報告ス

本信寫送付先

奉天、吉林、鐵嶺、通化、柳河、各公館長  
朝鮮、南、東、龍、兩署務局長

I-0855

檢證調書

殺人被疑事件ニ付昭和六年二月十七日海龍縣北山  
城子東南内合誠精米所ニ於テ司法警察官菅野部  
代理巡查桂祐次ハ司法警察官吏巡查菅野部  
會ニ上様証スルニ左ノ如シ

一場所ハ合誠精米所事務室内ノ炕上ニ於テ

一被害者ノ模様

被害者菅野春ハ合誠精米所事務室内炕上ニ臥シテ  
此ニ横臥シテ負傷部ハ右手ニ當テ左手ハ直下ニ  
臂部ホケツト入レ居リタルモ重傷ノ割合出血量多  
シ

一茲ニ於テ先ヅ被害者ノ創傷ニ付テ醫師林國徳  
ニテ鑑定ヲ為サレタリ

一創傷ハ左ノ箇所ナリ

(イ) 頭部

(ロ) 右手中指ニ擦過傷

(ハ) 左手首ニ打撲傷

創傷(イ)ヲ檢スルニ長サ約五寸餘ノ釘一本ヲ打込込  
タリ(ロ)(ハ)ハ檢閲中擦過セルニト認ム

一被害者ハ証人トシテ詢問スルニ左ノ申立ヲ為シタリ

共產黨共産党トニ回連呼セル外何等發言スル  
ヲ出未ダスレテ死セズ

一醫師ノ意見ニ依リテ創傷ハ致命傷ナリト

一先行用ニ使用セル釘五寸餘一本ハ証物品トシテ  
押收シタリ

一現場ニ於テ創傷ハ左ノ如クナリ

一此横証ハ本日前九時始メ九時半ニ終ル  
昭和五年二月十八日海龍縣北山城子東南門内合茂  
精米所ニ於テ横証調査ヲ作リ立會人ニ讀ミ聞  
テ其署名捺印ス

昭和六年二月十八日

海龍縣北山城子警察官吏出張所

司法警察官署部代理

四查 楊 祐 次

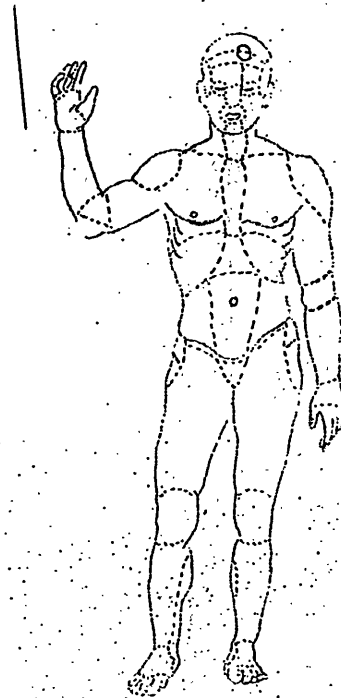
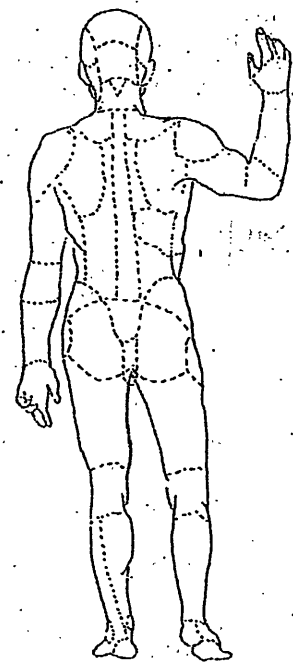
立會人司法警察吏

四查 成 智 鋪

(印)

I-0855

0051

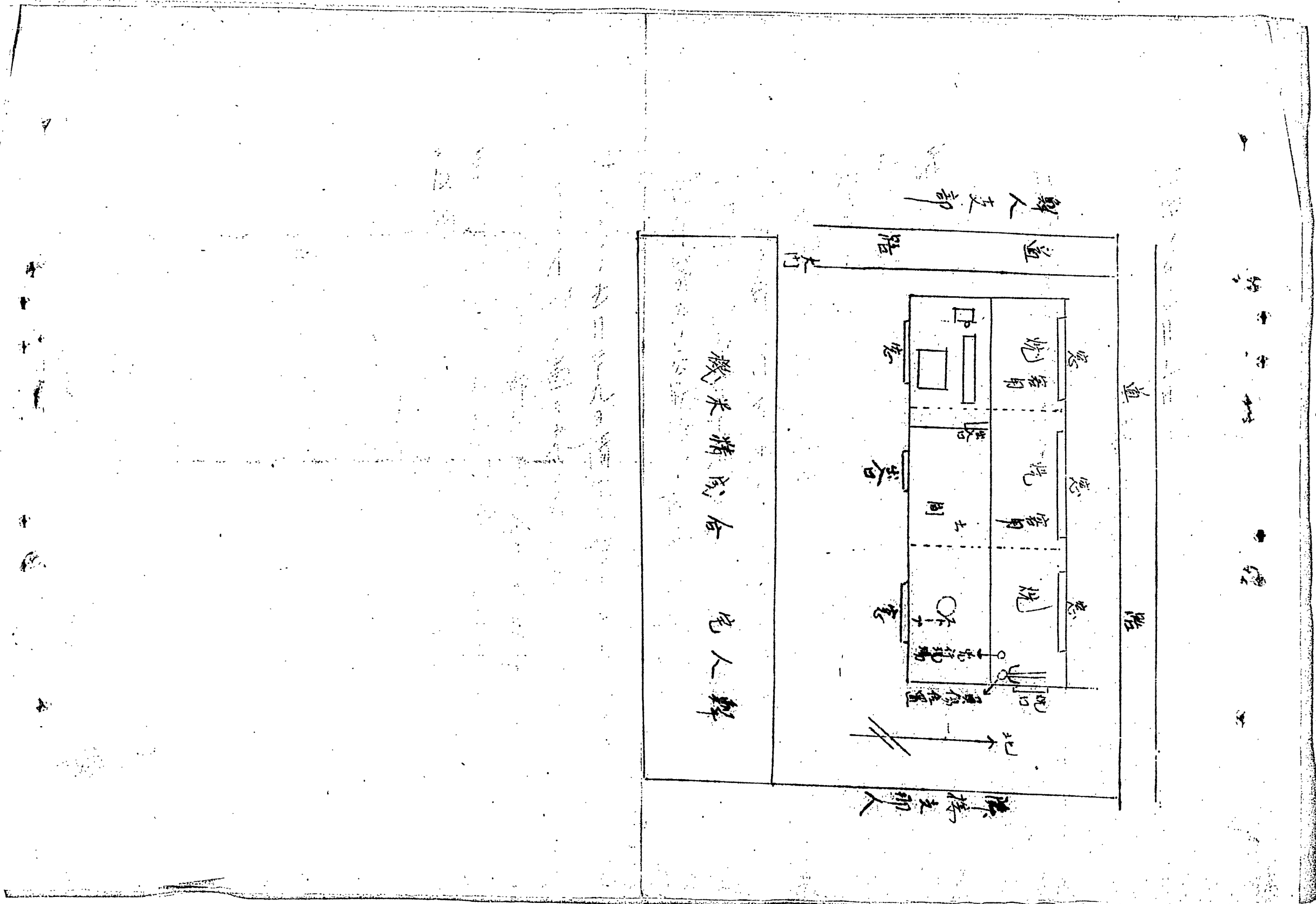


朱鳥小致命傷部ヲ示ス

I-0855

0052





米支那

米精前合 米人

米支那

米支那

I-0855

0055

亞細亞局  
機密公第一〇九號

昭和六年三月十三日

在長春

領事 田代 重 德

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

共產黨嫌疑者朝鮮人黃菊藻引渡ニ關スル件

本件ニ關シ當地市政籌備處側下ノ折衝據ニ付テハ本年一月九日附本  
官發在吉林石射總領事宛機密各領第三號冊信ニテ御承知ノコトト  
被存處其後中國側ヨリハ省政府ノ命ヲ下テ兩三回ニ亘リ口頭ヲ以  
テ黃菊藻ノ引渡方ヲ要求シ來リ其ノ理由ニ依レハ黃ハ客年ノ吉敦線  
暴動事件ノ際嚮(香、响)水屯方面ニ於ケル暴動ノ首領タリシコト  
同地村長ノ申立竝ニ同方面ニ於テ逮捕シタルモ未ダ調査未了ノ爲メ  
抑留中ノ朝鮮人等ノ言ニ依リ明瞭ナリ故ニ双方ヲ對質取調ヘテ行フ

ニ於テハ黃菊藻ノ犯罪證據ヲ奉ケ得ルト共ニ取調未了者ノ犯跡モ亦  
明カトナルノ便宜アルカ爲メナリトノコトナリ  
右申出ニ對シ當方ヨリハ大体獲ニ報告申進直キタル趣旨ヲ以テ婉曲  
ニ拒絕シ來リツツアリシカ當館カ最近探知シタル所ニ據レハ中國側  
ハ現在黃菊藻ニ對シ切ニ現大洋四百元ノ懸賞ヲ掛ケ逮捕ニ厲心シ居  
ル趣ナリ他面東北邊防軍副司令官公署(在吉林)ハ當地吉長鎮守使署  
ニ對シ將來日本領事ヨリ中國側官憲カ逮捕シタル朝鮮人ノ引渡方交渉  
アリトモ當署ノ指揮ナキ限リ獨斷ヲ以テ引渡スコトヲ避クヘキ旨ノ  
嚴命アリタル趣ナルカ右副司令官公署ノ嚴命ハ我方ノ黃菊藻引渡拒  
絶ニ對スル報復手段トモ察セラルル次第ナル處吉長鎮守使ノ管轄地  
域ハ屢次ノ報告ニテ御承知ノ通り當方面ノM.L.派不逞人ノ地盤ト  
目セラルル盤石縣竝ニ双陽、伊通、長春各縣ヲ含ミ居ル次第ニシテ  
最近ノ如ク中國側官憲ノ共產黨取締嚴重ヲ加フルニ伴ヒ正邪混淆要  
疑人ノ逮捕セラルルモノ妙カラサル折柄且之等被逮捕者中共産黨  
員ハ勿論普通ノ不良人ト雖モ憲兵若クハ軍隊ニテ逮捕シタルモノ

I-0855

0054

ハ悉ク當地吉長鎮守使者ニ押送シ來ルコトナリ居ル趣ナルヲ以テ  
從來鮮人引渡問題ニ付テハ裕別ノ「トラブル」ナカリシ當地ニ於テ  
モ將來ハ相當ノ波瀾ヲ免レサルヘシト觀測セラル從テ客年十二月八  
日附機密公第五六九號拙信ヲ以テ報告申進シタル盤石縣居住鮮農共  
産黨嫌疑者朴元資引渡ノ如キ好意的措置ハ或ハ自今吉長鎮守使ニ於  
テ取計ヒ難キコトトナリタル次第ナリ

直面セル資翁藤引渡問題竝ニ被逮捕鮮人ノ引取問題等ニ關聯シ双方  
ノ立場ニ立脚シ將來ノ爲メ相當考究ノ要アリト被存此段一應報告旁  
申進ス

本信寫送付先

代理公使 北平 奉天 吉林 哈爾濱 南京 閩島

朝鮮總督

關東長官

I-0855

0055

亞細亞局  
機密第三四五號

昭和六年四月一日

在 哈 爾 濱

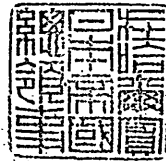
總領事代理 中 野

高

外務大臣男爵 幣 原 喜 重 郎 殿

中國官憲ノ鮮人共產黨員檢舉ニ關スル件

19123-10  
昨秋東部線齊安縣一帶ニ於テ朝鮮共產黨員ノ暴動事件勃發以來同縣政府ニ於テ多數ノ黨員ヲ檢舉シタル件ニ關シテハ二月二十七日附閣下宛機密第二〇四號拙信ヲ以テ既報セル處ナルカ同縣政府ニ於テハ其後引



三浦

昭和六年四月六日

接受印



右

Handwritten notes and signatures in the right margin.

續キ取調中ノ處三月二十日該事件關係者トシテ左記十二名ヲ當地護路軍司令部へ押送シ來リタリト云フ

記

車炳海、朴魯一、玄龍文、尹一作、魏秀學、高炳洙、張基燮  
李龍雲、毛書善、吳明九、李鳳來、呂太元  
右諜知報告ス

本信寫送附先

在 中 華 民 國 公 使 在 北 平 首 席  
在 奉 天 上 海 吉 林 間 島 長 春 各 總 領 事 領 事

BII

I-0855

0056

亞細亞局  
機密第三四八號

昭和六年四月二日

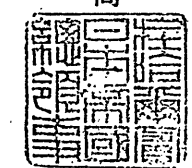
在 哈 爾 濱

總領事代理 中 野 高

外務大臣男爵 幣 原 喜 重 郎 殿

鮮人農民協會青年部第十三支部組織ニ關スル件

中國共產黨員鮮人朴根發起ノ下ニ本年一月中虎林縣居住吳泰敏方ニ於  
テ同縣青年數十名集合シ中國共產黨系統ノ農民協會青年部第十三支部  
ナルモノヲ組織シタルカ會員三十五名ニシテ同會員ハ十八才以上三十



昭和六年四月六日 接受BI

才未滿ノ者ヲ有資格者トシ入會金大洋一元ナリト云フ  
右農協支部ノ有力ナル幹部氏名左ノ如シ

虎林縣農民協會青年部第十三支部執行委員長 姜 大 峯

宣傳部文化部責任通信 李 永 昌

庶務部責任 金 基 武

組織部責任 金 一 男

外交部責任 劉 煥

自衛部責任 崔 仲 之

尙右宣傳部責任李永昌ハ三月二十三日連絡及通信ノ目的ヲ以テ來哈シ  
中國共產黨員鮮人金燦（別名趙權赫）方ニ潜伏中ナリト  
右當館警察ノ諜知セル所ヲ報告ス

本信寫送附先 在中華民國公使 在北平首席

在奉天 上海 吉林 間島各總領事 朝鮮總督府警察局長

B11

I-0855

0057

亞細亞  
機密第七二號

昭和六年四月十四日

在海龍

分館主任 松浦



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

共產黨員檢舉取調件報告

當館警察署に於て檢舉取調中ナリシ中國共產黨滿洲  
者委員會ニ屬スル共青特委南滿派遣員鮮人柳光珠  
朝鮮ニ於ケル政治變革又ハ私有財産否認ノ目的トシテ  
逞行動ノ現行犯ニテ別紙犯罪意見書ヲ通付本月六  
日一件書類ト共ニ身板奉天總領事館へ押送セリ

右御參考迄ニ報告ス

本信寫送付光

奉天吉林間島通化撫鹿鐵嶺各領事館  
朝鮮關東廳各警務局長

I-0855

0058

意 見 書

自稱本籍朝鮮咸鏡北道鏡城郡米乙温面蓮鄉洞以下不詳

戸主 柳昇ノ孫

住所不詳

柳長春、李永華等

無職

柳 光 珪

當二十三年

一 犯罪發覺原因

司法警察官吏ノ探知逮捕

二 前科ノ有無

ナレト云

三位階勳等

四 犯罪事實

ナレト云

被疑者光珪ハ豫テ現社會制度ニ対テ反感ヲ懷キ居リ  
 折板昭和五年十月十日北間島ニ道溝ニ於テ全地居住秘密  
 結社共產党ニ加入シ派員林東豪ノ勸メヨリ全團員加盟  
 シ今年三月二十日全党仲坪里支部長金紅基ヲ命ジ依リ  
 南滿洲地方派遣員トシ今年五月二十日頃遼寧省南柳河  
 縣三源浦ニ来リ全縣共產党責任ヲ李鉄悖ノ指揮  
 下トシ全人ノ命ニ依リ輯安縣地方ニ派遣サレ團員ノ組織  
 ニ努メ更ニ今年七月中旬ニ全黨ヲ解散シ中國共產党  
 滿洲省委員會ニ入黨スルト同時ニ南滿洲共青特委  
 代表林山ノ命ニ依リ今年十月頃通化縣責任トシ全地  
 哈泥河ニ派遣サレ團員ヲ召集及國作ノ變革私利財產

I-0855

0059

五、證據

否認等、總有主義、宣傳講演ヲ爲シタルヲ昭和六年  
二月中旬前記林山ノ命、依リ全團員金氣道ト共ニ  
寛甸縣地方ヲ買収シテ派遣セルニト、ナリタルヲ以テ三月二  
十七日海龍縣北山城ヲ襲、宣傳用準備トシテイキ、  
復寫紙封筒等ヲ買収中、現行ヲ逮捕シタルモノナリ

司法警察吏ノ逮捕手續書、被疑者ニ對スル司法警察  
官代理ノ訊問調書、押収物件

目録第一號至第六號

六、法律ノ適用

本件ヲ按ズル被疑者老珪、所為ハ大正十四年法律第四  
十六號第一條及第二條ニ該當スル犯罪ナリト思料ス

七、犯罪ノ情狀

被疑者老珪、共產黨ニ加盟シテ滿洲各地ヲ轉シテ團員  
ノ組織、主義、宣傳ニ努メ居タルモノニテ、若年ニテアリナカ  
ル縣責任又ハ派遣員等トシテ相當重要ノ地位ニアリ  
一見温順ニテ改悛ヲ裝フモ自己ノ主義ヲ離スル如キ事  
ナレト思料セルヲ以テ嚴重處罰ヲ要アルモノト認ム

昭和六年四月六日

於在海龍日本總領事分館並ニ警察署  
司法警察官外務省警部

I-0855

0060



昭和六年四月廿一日

昭和前年四月十日

在海龍

分館主任 松浦



(別紙添附)

昭和六年四月廿一日 接受

外務大臣田中閣下 閣下承知 謹言

昭和六年四月十日附録第百〇〇號

宛寫送付

名件 柳河縣、於立中國官憲、鮮人若鹿虎勇、檢察之關下件

檢察之關下件

昭和六年四月十日

在海龍

分館主任 松浦

寫 在奉天 總領事 林 久治郎 殿

柳河縣、於立中國官憲、鮮人若鹿虎勇、檢察之關下件

本件之關下件、本月六日附檢察之關下件、檢信ヲ以テ及報告置、其右當館、於テ檢

I-0855

006

知悉ル処方一通リ追報ス

記

一 客月廿六日五道沟鮮人精米所、於テ逮捕セラル  
レタル金永浩、朴喜宇、兩名ハ本月十日同地村長  
等ノ保証ヲテ釈放セラルリ  
二 本月十日午後七時頃三源浦第三區公安局ヨリ  
三名ノ鮮人縣公安局、押送留置セラレタリ右ニ  
就テ中國人側巷説、依リ本月五日午後柳河縣  
馬鹿溝地方テ中國公安局逃撃隊約二十名ト  
鮮人共產黨員約十名ト交戦シ其結果逃撃隊  
隊側ハ何等ノ損傷ナカリシニ鮮共側ハ於テ一名ヲ

殺三名拿捕セラレ三源浦分局、於テ取調後十日  
縣公安局ニ押送セラレタルモノナリト  
以上

本信ヲ送付先

外務大臣 吉林 鐵嶺 通化 桓仁 各公署  
朝鮮の専断社が知らしむ

I-0855

0062

字ノ者

亞細亞局

第三三三號

昭和六年四月廿二日 接受 BI

機密公第一四四號

昭和六年四月十六日

在吉林

総領事

石射猪太郎



外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

支那官憲ノ鮮人共産黨員逮捕ニ關スル件  
本件ニ関シ当館ノ諜知シ得タル所別記ノ通り報告  
申進入

本信寫送付先

奉天 間島 長春

關東長官 朝鮮總督

吉林省額祿縣拉法站居住李相根(二十七八年慶北安東出身)  
ハ元在尚農氏同盟拉法支那ノ責任者ニシテ客年八月  
日吉敦沿線ニ於ケル共匪暴動事件ノ指導者トシテ  
活動シタル者ナルカ最近舒蘭縣内ニ潜伏シ居タル  
処同地支那官憲ニ逮捕拘禁中ナリト云フ

BII

手書メモ



I-0855

0063

朝鮮總督府  
警務局  
朝鮮秘第三〇〇號

昭和六年四月十八日

朝鮮總督府 警務局長

昭和六年四月卅日 接受

記録簿  
朝鮮共産党再組織ノ決定書ノ發表シタル後ハ專ラ党再組織ニ奔走

(分類 下 5.2.3-10)

拓務省	朝鮮保部	長	殿
内務省	警務局長	長	殿
外務省	亞細亞局長	長	殿
警務總	警務局長	長	殿
臺灣總督府	警務局長	長	殿
關東廳	警務局長	長	殿
京都府	警務局長	長	殿
神奈川、兵庫、長崎、愛知	知事	殿	
山口、福岡、縣	知事	殿	
在支公	使	殿	
天津、上海、奉天、吉林	領事	殿	
哈爾濱、間島	總領事	殿	
安東、鐵嶺、長春	領事	殿	
各法院檢察事	長	殿	
各道知事	正	殿	
各派遣員	事	殿	

朝鮮共産党再建設整理委員會事件檢舉ノ件

客年十二月京城西大門警察署ニ於テ朝鮮共産党再組織ノ目的ヲ以テ南滿教化ヨリ入鮮シタル李雲赫及宋道浩ヲ逮捕シタルガ李雲赫ハ大正十三年ソウル派金思國等ノ組織シタル朝鮮最初ノ共産團體タル高麗共産同盟ニ加入シタル以來本籍地タル咸鏡北道ニ於テ自派ノ擴大強化ヲ圖リ後安光泉等ノML派朝鮮共産党ニ入りテ之ガ切崩ヲ策シ昭和二年十二月ソウル派金榮萬、李英等ガML派ニ對抗シテ朝鮮共産党ヲ組織スルヤ之ガ中央幹部トナリ活動中昭和三年四月党檢舉ニ遭ヒ巧ニ所在ヲ晦マシテ京城ニ潛ミ後繼党ノ組織ヲ企畫シ同年八月浦潮ニ出奔シタルガ同地ニ於テハ李東輝ト共ニソウル派ヲ代表シテコミンテルン及朝鮮ニ對シ策動ヲ試ミ昭和三年十二月コミンテルンガ朝鮮共産党再組織ノ決定書ヲ發表シタル後ハ專ラ党再組織ニ奔走

I-0855

0064

シ鮮内中心主義ヲ主張シテ同志ニ容レラレズ昭和四年五月北滿ニ轉  
ジ更ニ教化ニ居ヲ稱ヘテ地方青年ノ教養ニ志シ其ノ間再三密使ヲ鮮  
内ニ送りテ党再組織ヲ企テ昭和五年反戦デーニ際シ教化地方ノ共匪  
暴動事件以後ハ身邊ノ危険ヲ感ジ寧ロ此ノ際入鮮シテ党ノ再組織ヲ  
ナサンコトヲ決意シ九月下旬教化ヲ出發シ十月十一日京城ニ入り朝  
前後シテ入鮮シタル宋道浩及吳省世ト謀議ノ結果十一月二十六日朝  
鮮共產党再建設整理委員會ヲ組織シタルコト判明セリ而シテ本名ハ  
從來ヨリソウル派一方ノ領袖トシテ内外主義者間ニ重キヲ爲シ今次  
党再建運動ニ當リテモ確固タル理論ヲ把持シ入鮮後起草シタル世界  
革命ト朝鮮共產主義者ノ國際的任務、現下ノ朝鮮情勢ト革命ノ特質  
党再建ノ組織方針、民族解放協同戦線ノ任務並朝鮮無産階級運動ノ  
現段階等ト題スル党再建テーゼハコミンテルンノ朝鮮共產党再組織

2.

方針ヲ體シソウル派ノ持論タル民族革命ノ兼併及大衆主義ヲ骨子ト  
シテ革命運動ヲ展開セントシタルコトヲ窺ヒ得ベク取締上ノ好資料  
ト認メラル尙本件被疑者中李雲赫、宋道浩ノ外ハ逮捕ニ至ラザルモ  
本年一月十四日治安維持法違反トシテ所轄機事ニ送致セリ  
右參考迄

朝鮮共産党再建設整理委員會事件概擧顛末

一 關係被疑者

二 李 雲 赫

三 宋 道 浩

四 朝鮮共産党再建設整理委員會ノ結党

五 李雲赫ノ起草セル再建理論

1. 世界革命ト朝鮮XX主義者ノ國際的任務ニ關スルテ一ゼ

2. 現下ノ朝鮮情勢ト革命ノ特質ニ關スルテ一ゼ

3. X再建ノ組織的方針ニ關スルテ一ゼ

4. 民族解放協同戦線ニ關スルテ一ゼ

5. 朝鮮無産階級運動ノ現段階

關係者被疑者

本籍 咸鏡北道鏡城郡梧村面壽昇洞六十五番地  
住所 不定

元朝鮮青年總同盟中央執行委員

朝鮮共產黨幹部

常民 無職

李春秋、崔光植、金玉山コト

逮捕 起訴 李 雲 赫 當三十七年

本籍 咸鏡北道慶興郡雄基面雄基洞番地不詳  
住所 不定

元雄基勞働聯合常務執行委員

元雄一青年會執行委員長

常民 無職 金千石 林青鳳 金三仙

金先一コト

逮捕起訴 宋 道 浩 當二十九年

本籍 咸鏡南道端川郡利中面荷田里番地不詳

住所 不定

朝鮮共產黨幹部

常民 無職 吳省世、吳成世、吳聖三、金聖三コト

未逮捕 起訴中止 吳 祿 世 當二十五年

本籍 咸鏡南道咸興郡南面以下不詳  
住所 不定

常民 勞働

未逮捕 起訴中止 韓 裕 林 當三十七年位

本籍 咸鏡北道城津郡以下不詳  
住所 不定

常民 無職 鄭瑞麟、鄭世麟、鄭憲、李燾淳コト  
未逮捕 起訴中止 鄭 義 憲 當二十六年

本籍 咸鏡南道利原郡以下不詳  
住所 不定

常民 勞働  
未逮捕 起訴中止 金 益 洙 當四十年

本籍 咸鏡北道以下不詳  
住所 滿州敦化縣以下不詳

常民 勞働 姜文秀、又ハ姜武秀コト  
未逮捕 起訴中止 姜 武 洙 當三十年

本籍 京城府体府洞百八十四番地  
住所 不詳

常民 無職  
不起訴 金 英 培 當二十七年

本籍 不詳  
住所 不詳

常民 勞働  
不起訴 金 溪 英 當三十九年

本籍 慶尙南道昌原郡鎮海面泥洞里三百五十五番地  
住所 右 剛

常民 中外日報支局記者  
不起訴 金 鐘 健 當三十五年



本籍 江原道高城郡杆城面新安里二十一番地  
住所 右 同

常民 無職  
不起訴 咸 演 喙 當三十二年

本籍 忠清南道天安郡稷山面以下不詳  
住所 不詳

常民 無職  
未逮捕 起訴中止 金 泰 來 當二十五年

本籍 全羅南道扶安郡白山面元洞里番地不詳  
住所 不詳

常民 無職  
未逮捕 起訴中止 金 某 當二十五年

本籍 慶尙北道青松郡青松面金谷洞七百四十九番地  
住所 不詳

朝鮮共産黨員  
常民 無職 尹錫漢、蘇野コト

未逮捕 起訴中止 尹 滋 英 當三十八年  
本籍 慶尙南道以下不詳

住所 不詳  
常民 無職 李熙コト

未逮捕 起訴中止 金 善 玉 當二十五年位  
本籍 咸鏡北道明川郡西面湖南洞千八十六番地

當時 咸鏡北道慶興郡雄基洞  
常民 醫師、車内淳、車哲コト

未甚補 起訴中止 車 哲 淳 三十三三年

二、李雲赫

特ニ學歷ナキモ名門ノ出ナルト性質伶俐ニシテ威鏡北海道郡書記ニ任官シ大正八年十二月上海假政府威北聯通制事件ニ連座シ大正八年制令第七號違反トシテ懲役一年六月ニ處セラレ入獄中同房ノ主義者ヨリ共產主義ノ洗禮ヲ受ケ出獄後社會運動ニ進出シ大正十三年四月京城ニ於ケル朝鮮青年黨大會並朝鮮青年總同盟創立大會ニハ鏡城青年會代表トシテ出席シソウル派領袖金思國、李英等ノ理論ニ共鳴シテ同年夏ソウル派幹部ヲ以テ組織セル高麗共產同盟ニ加入シ歸郷後ハ專ラ道内ニソウル派ノ勢力ヲ扶殖スベク活動シ同志車哲淳、李載夏、孟斗恩ヲ勸誘シテ共產同盟ニ入党セシメ大正

十四年十二月浦潮ニ赴キ同地共產黨員ト交リ同年五月滿洲經由京城ニ歸來セリ當時鮮内ハ安光泉一派ノ展開シタル理論闘争方向轉換論ガ全鮮ヲ風靡シツツアリシ時ナリシモ本名ハ李英等ノソウル派ヲ扶ケテ之ニ反對シ同年末歸郷後モ自派ヲ固持シ運動ヲ續ケタルモ嘗テ同志タリシ李載夏等ガML派ニ傾キタル結果昭和二年七月遂ニ運動ヲ斷念シ東京ニ遊學スベク京城ニ來リタル際李英等ノ説服ニテ一時ML派ノ朝鮮共產黨ニ入り党内ノ攪亂ニ努メ同年十二月京城ニ於テ開催セントシタルML派朝鮮共產黨第三回大會ニハ自稱威北代表トシテ党ノ切崩ヲ策シ同年十二月二十五日金榮萬、李英等ガ京城府長衙町春景園ニ於テ別ニソウル派ヲ糾合シテ朝鮮共產黨ヲ結成スルヤ入りテ中央幹部政治部員トナリ同党運動方針中ノ青年運動及婦人運動ヲ擔當シテ執筆セリ（昭和三年六月朝保

秘第一三五〇號非理論派朝鮮共産党並朝鮮共産青年党檢舉ノ件參照)

然ルニ翌三年三月京城ニ於テML派共産党ヲ又同年四月新義州ニ於テ非理論派共産党ノ檢舉ニ着手スルヤ同志ハ相次テ逮捕サレ其ノ間巧ニ所在ヲ晦マシ京城ニ滞在シテ非理論派共産党ノ後繼組織ニ奔走シ身邊ノ危険ヲ察シテ同年八月同志方漢又ニ後事ヲ託シテ再ビ入露スルニ至レリ

入露後ハ浦潮ニ滞在シテソウル派ニ屬スル李東輝、金榮萬等ト交ハリ同年十二月コミンテルンガ朝鮮共産党ノ再組織ニ關スル決定書ヲ採擇シテ之ヲ發表スルヤ本名ハ他ノ黨員トハ意見ヲ異ニシ飽迄鮮内中心主義ヲ主張シ昭和四年一月鄭燧ヲ密使トシテ入鮮セシメ曩ニ党組織ノ後事ヲ託シタル方漢又ニコミンテルンノ決定書及

3

党組織方針ヲ手交シ又同年四月ニハ宋道浩ニ旨ヲ含メテ同様ノ文書ヲ携帶入鮮セシメ京城李駿烈ニ交付スル處アリ方漢又李駿烈等ハ李雲赫ノ指令ニ依リテ同年二月李駿烈ヲ責任秘書トシテ朝鮮共産党ノ暫定組織ニ着手シ同年四月李東輝ノ密使安相勳、宋武英ノ入鮮ヲ機ニ朝鮮共産党再組織準備委員會ヲ組織スルニ至レリ(昭和四年九月朝保秘第一六七八號朝鮮共産党再組織事件檢舉ニ關スル件參照)

而シテ李雲赫ハ浦潮ニ於テ李東輝、金榮萬、尹滋英等ト屢々會合シテ党再組織ヲ協議スル處アリタルガ他ノ黨員ト意見一致セズ遂ニ同年五月滿洲ニ赴キ將來青年ノ教養ニ從フベク教化ニ居ヲ構ヘタリ其ノ間太極、宋道浩ヲ密使トシテ鮮内同志ニ党組織ヲ勸誘シ或ハ在滿同志ト連絡ヲ執リツツアリシガ客年反戰デーニ於ケル敦

化地方ノ共匪暴動事件後ハ身邊頓ニ危険ヲ感ジ加フルニ在滿黨員  
中ノ領袖尹滋英ノ訪問ヲ受ケ暗ニ本名ノ蹶起ヲ促シタル結果茲ニ  
愈々入鮮シテ自ラ党再組織ヲ企ツベク決意シ十月五日敦化ヲ發シ  
十月十一日京城ニ潛入セリ

### 三 宋道浩

貧困且不通ノ家庭ニ生長シ東京ニ於テ苦學シ經濟學ニ興味ヲ感ジ  
社會組織ノ不合理ヲ知ルニ至リ歸郷後ハ専ラ社會運動ニ從ヒ昭和  
四年一月共產大學入學ノ目的ヲ以テ入露シ滯浦中ノ李雲赫ヲ訪ヒ  
タルモ目的ヲ達セズ爾來李雲赫ノ密使トナリテ前後二回ニ亘リ入  
鮮シ党再組織運動ニ從事スルニ至レリ初回入鮮ハ昭和四年四月ニ  
シテ李雲赫ヨリ京城李駿烈宛ノ党再組織ニ關スル密書ヲ携帯シ京  
城潛入後ハ李駿烈ノ逮捕サレタル後ナリシヲ以テ金泰來ト往來シ

六月下旬再ビ入露セリ而シテ李雲赫ノ後ヲ追ヒテ敦化ニ赴キ入鮮  
中ノ狀況ヲ報告シ更ニ入鮮スルコトトナリ李雲赫ヨリ威鏡北道及  
京城ニ於ケル同志ノ紹介ヲ受ケ客年四月入鮮シ尹秉球、朱採熙、  
張煒等ニ李雲赫ノ指令ヲ傳ヘ其ノ後ハ京城ニ於テ圖書館ニ出入シ  
李雲赫ノ依頼ニ依ル會社、工場、金融機關、教育機關、農村、軍  
隊、警察、總督府豫算等ノ統計材料ヲ蒐集セリ

### 四 朝鮮共産党再建設整理委員會ノ結党

李雲赫ハ京城ニ潛入後府内ヲ轉々シタル後宋道浩ノ潛伏場所タル  
府外崇仁面長以里俞容濬方ニ同宿シタルガ十月二十日頃豫テ入鮮  
ニ際シ尹滋英ヨリ指示サレタル光化門十字街ニ於テ吳省世ト邂逅  
シ共ニ党再組織ヲ約シ十一月十二日吳省世ノ潛伏場所府内館洞一  
七九醫生李鍾益方ニ李雲赫、吳省世、宋道浩ノ三名會合シ第一回

党組織ノ協議ヲ爲シ從來ノ運動ヲ批判シ缺陷ヲ指摘シテ今後ノ方針ヲ打合セ同月十九日同一場所ニ於テ第二回會合ヲ催シ新幹會、權友會、勞總、農總、衡平社等ノ各団体ヲ解消シテ産業別職業組合ヲ組織シ之ガ擴大強化ヲ圖ルコトニ決シ更ニ十一月二十六日同一場所ニ於テ第三回會合ノ結果三名ノ意見全ク一致シ宋道浩ノ勳議ニテ朝鮮共産党再建設整理委員會ヲ組織スルニ至レリ即チ中央幹部トシテ

最高政治部責任	宋道浩
組織部責任	吳省世
同部員	金益溙
宣傳部責任	李雲赫
同部員	姜武秀

ヲ互選シ改良部員トシテ吳省世、李雲赫ヲ舉ケ同部員ハ全般ノ議事ニ參與スルコトニ決定セリ中央幹部中金益秀、姜武秀ノ兩名ハ吳省世ノ同志ニシテ近ク呼寄スコトトシ地方機關ノ組織ニ付李雲赫ノ發議ニテ全鮮ヲ六區ニ分チ差當リ一名宛ノ委員ヲ選定シ本人ヘノ交渉ハ後日機ヲ見テ行フコトトセリ各區委員ハ

- 畿湖地方整理委員會（京畿及忠南北）  
委員 未定
- 嶺南地方整理委員會（慶南北）  
委員 金鍾健
- 湖 地方整理委員會（全南北）  
委員 金某
- 嶺東地方整理委員會（江原）

委員 咸 演 緯

西鮮地方整理委員（黃海平南北）

委員 金 益 洙

北鮮地方整理委員會（咸南北）

委員 韓 裕 林

ニシテ右ノ内韓裕林、金益洙、金某ハ吳省世ガ咸演緯、金鍾健ハ李雲赫ガ推選シ畿湖地方委員ハ吳省世ハ金溪英ヲ李雲赫ハ金英培ヲ推シ決定ニ至ラズ次回會合ヲ十二月六日ト定メ散會シタルガ李雲赫ハ十二月五日宋道浩ハ同六日何レモ逮捕サレタリ

尙李雲赫ハ十一月十二日第一回會合以來党再組織ニ關シ決定シタル理論ヲ夫々記述シ之ヲ結党精神トシ一部ハ東京ニ送りテ「戦旗」ニ發表スベク準備中ナリシヲ逮捕ト同時ニ押收シタルガ其ノ主ナ

ルモノハ別項ノ通りニシテ本名ガ從來ソウル派一方ノ領袖トシテ内外主義者間ニ重キヲ爲シ浦潮ニ於テ李東輝、金榮萬、尹滋英等ト党再組織ニ關シ協議シタル際モ鮮内中心主義ヲ主張シテ譲ラズ爲ニ異端者トシテ教化ニ轉ズルニ至リタルモノニシテ鮮内共產主義者中ニハ本名ノ理論ニ共鳴スル者モ尠カラズト認メラル

五 李雲赫ノ起草セル再建理論

(一) 世界革命ト朝鮮××主義者ノ國際的任務ニ關スルデーゼ

一、資本主義ハ世界ノ大部分ヲ支配スル生産手段ノ私有銀行業者、企業家、地主ニ依ル労働階級者及生産ノ無政府状態ハ資本家の社會組織ノ最も重要ナ標識タ凡テノ形態ノ資本家國家ハ労働階級ノ壓迫ト搾取ヲ維持スル爲ノ支配階級ノ機關タ

二、資本ト生産ノ集中ハ資本主義ヲ其ノ發展ノ新段階ニ導キ入レタカラトラスト、シンデゲイト、カルテルノ形式ト金融資本ノ支配ヲ特徴トスル帝國主義ノ段階ガ即チソレダ、商品ノ新販路ト廉價ナル原料ノ資源及資本輸出ノ新ナル可能性ヲ獲得スル爲帝國主義ブルジョアデーハ歐羅巴以外ノ經濟的ニ遅レタ民族ノ大部分ヲ征服シ其ノ上土地ヲ收奪シ他部分ハ之ヲ其ノ隠然タル支配下ニ置イタ諸種ノ國民的タル資本家ノ徒党ハ世界ノ分轄ト再分轄ノ爲不斷ノ

1

激烈ナル鬭争ヲシテ居ルカラ此ノ繼續的鬭争ハ必然的ニ武裝的衝突、帝國主義戦争ヲ招来スル

三、然シ帝國主義諸國ノ略奪戦争ハ必然的ニ資本主義夫レ自体ノ破滅ヲ抱伴スルカラ彼等ノ一九一四年ヨリ一九一八年ノ世界戦争ニテ完全ニ没落ノ道程ニ立チタル世界資本主義ハ其ノ後ブルジョアの諸種手術ニ依リ一時的安定ヲ圖謀スル所アツタケレドモ彼等諸國家間ノ政治的經濟的對立ハ平和條約ニ依リ除去サレテヨリ却ツテ尖鋭化シ且社會的均衡ト資本主義經濟再建ノ努力ハ階級對立ノ異常ニ激化ニ依リ却ツテ攪亂ハレル

四、第一次世界戦争以來國際無産階級ノ資本階級ニ對スル鬭争ハ三ツノ主要階段ヲ踏ンテ進展シタ

五、第一階段ハ戦争直後ヨリ一九二三年迄テ資本主義恐慌ガ最も尖鋭

化シ勞働階級直接革命ノ時期デアツタ此ノ時期ニ於テソヴエート  
露西亞ノ社會主義革命ガ確立サレ國際××党カ組織サレタコトハ  
世界無產階級ノ勝利ニシテ誇デアルガ獨逸匈牙利革命ノ失敗ト其  
ノ他大衆的革命運動ノ敗北ハ帝國主義列強ノ干渉ト反革命ノ功果  
デアツテ業績ナリト見ルコトヲ得ルカ、コハ××派ノ力ガ未タ微  
弱ナ反面ニ於テ社會民主党ノ背反ガ甚シカツタノニ基因シタノタ  
六 第二階段ハ資本主義ノ一時的安定期デアツテソヴエート露西亞ノ  
急速ナ發展期ヲ世界大戰ヨリ破壞サレタル歐洲列強ハ生産力ノ回  
復ト共ニ戰勝國對戰敗國ノ國際關係ハ漸次解決サレテ彼等ノ所謂  
「産業合理化」ノ實施ニ因リ勞働階級ノ生活狀態ハ甚タ惡化スル  
地方ニ於テソヴエート露西亞ノ社會主義的建設ハ政治的經濟的ニ  
巨大ニ上昇シ且國際××党ノ組織的的政治的影響ノ増大ニ相伴ヒ勞

働階級ノ防禦戰ハ資本ノ攻勢ニ對抗シタノニ直接革命ノ形勢ハ東  
方ニ移ツテ中國ノ大革命ト印度、モロツコ等ニテハ武裝行動ガア  
ツタ  
七 第三階段ハ資本主義經濟トソヴエート露西亞ノ經濟發展ガ世界大  
戰前ノ水準ヲ超過シタル時期ニシテ資本主義世界トシテハ技術ノ  
發展生産ノ獨占化、國家資本主義トシテハ移行等ハ經濟的恐慌ヲ  
世界の規模ヨリ發展セシメ商品ノ新販路ト廉價ナル原料ノ資源及  
資本輸出新ナ覇權ヲ掌握スル爲メ世界再分轄ノ第二次略奪戰爭ハ  
準備サレル而シテ殊ニ露西亞ノ確乎タル社會主義的建設ト共ニ資  
本主義列國內ニ在ル勞働大衆ノ尖銳ナル階級闘争ト殖民地及半殖  
民地諸國ニ於テノ反帝國主義闘争ノ擴大強化ハ資本主義安定ノ動  
搖ト恐慌ヲ一層激化スルノミタ



八當面國際關係ノ基礎ハ資本主義列強ノソヴェート露西亞ニ對スル關係、帝國主義ノ太平洋問題ニ對スル關係英國ヲ主トスル歐洲ノ米國ニ對スル關係ニアル

九月革命ノ勝利ガソヴェート聯邦ヲ資本主義世界ノ體系中ヨリ離脱セル結果ハ世界資本主義ノ危機ヲ一層發展セシムル素地ヲ與ヘタソヴェート露西亞ハ其ノ政權ノ確立鞏固化ニ兼テ歐羅巴勞働者及殖民地勞働大衆トノ聯合ニテ資本主義列強ノ原料資源及販賣市場ヲ獲得スル爲ノ世界再分轄ノ計劃ヲ安心シテ遂行シ得サランムルノミナラスソヴェート露西亞ノ存在ソレノミガ既ニ世界ノ六分一ヲ占メタル廣大ナル地面ヲ資本主義世界ヨリ分轄シタル關係上世界資本主義ノ危機ガ増大スルニ從ヒ一層彼等ハソヴェート聯邦ノ進攻ヲ圖ルコトニナルカラ現在ニ於テ英國ヲ先頭トスル反ソヴェート統一戰線ノ計劃ハ軍事的攻勢ニ進出スルコトヲ準備シテ居ル併シナカテソヴェート聯邦ハ直接其レニ備フル他ニ於テ又資本主義體系中ノ相互間矛盾ヲ利用シ米國、伊太利、日本、獨逸、土耳其等諸國ト修好的關係ヲ締結シ資本主義世界ヲ兩分シツツ國內政權ノ鞏固ト世界××ノ強化ニ努力スルノタ。

三帝國主義相互間ノ矛盾ニテ最モ顯著ナルハ亞細亞ニ在ル支配權ト其ノ支配權掌握ノ道ヲ得ル爲鬭爭ノ源泉トシテ所謂太平洋問題其ノ中ニモ中國問題ヲ中心トスル英、日、米ノ衝突ト地中海ノ支配權ヲ獲得ノ爲ノ鬭爭ノ源泉トシテ即東洋ニ至ル最近距離ノ道ヲ得ル爲ノ所謂地中海問題ヲ中心トスル英、佛伊ノ矛盾ガヤリテ從ツテ又世界霸權爭奪ノ關係ニテ敵對的立場ニアル英國ト米國ノ石油問題ヲ中心トスル鬭爭アリ之レ石油ノ多少ガ戰爭ノ勝敗ヲ決定ス

ル所ノ主要條件トナル爲タ

二而シテ三ツノ形態ノ戦争ノ切迫セルハ想像シ得ヘク第一ハ帝國主義相互間ノ戦争第二ハ資本主義諸國ノソヴエート聯邦ニ對スル戦争第三ハ太平洋問題ニ於テ龐大ナル中國市場ヲ分贖スル爲ノ干渉戦争トナルノタ

一三此ノ戦争ハソレカ帝國主義相互間ノ掠奪戦争ヨリノミ開始スルトシテモ必ラス革命戦争ニ轉化スル客觀的條件ヲ持チ居ルカラ戦争準備ニ汲々タル帝國主義國家等ハ各其ノ自國內ノ無産階級運動ト殖民地民衆ノ反亂ヲ防止スル時社會民主々義民族改良主義等ノ墮落分子ヲ構結シ革命運動ノ分裂ト去勢ニ努力シツツ白色恐慌ヲ以テ臨ムノタ。併シナガラ國際プロレタリアートノ激烈ナル直接的闘争ハブルジョアノ權力ヲ轉覆シ労働階級獨裁ヲ建設シ資本家ノ

獨占セル生産手段ヲ沒收シ而シテ財産ト階級ノ完全ナル廢絶及×

×主義的經濟組織ト社會ノ建設ニ向フ歩ヲ踏ンデ居ル

三此ノ凡テノ事實ハ世界革命ノ前提條件ヲ具備シテ居ル事ヲ證示スル併シ其ノ勝利ハプロレタリアートノ闘争ト意志ノ力ニ懸ツテ居ルヲ又無産階級革命ノ勝利ヲ完成スル道程ニハ革命ノ滿潮日ト干潮日ガアリ勝利ト敗北ガアル等テプロレタリアートハ凡ユル改良主義的幻想ヨリ決定的ニ解脱シ全世界勞役大衆ノ革命的指導者ニシテ代表者タル××ノ指導下テ堅忍ナル永續的闘争ヲ以テ労働階級獨裁政府ノ樹立ヲ經テ××主義社會ヲ建設セネバナラヌ

一四朝鮮ハ在東方國際白色軍ノ先鋒隊トシテ其ノ他ノ地理的經濟的關係ガソヴエート露西亞ノ進攻ト中國勞農革命反對ノ主役軍トナラシムル日本帝國主義ノ完全ナル殖民地トシテ彼等ハ朝鮮民衆ハ政

治的經濟ニ抑壓搾取スルノミナラス又殖民地朝鮮ヲ唯一ナ架橋  
トシテ大陸進出ノ政策ヲ樹立シ實行スル爲太平洋未來ノ戰爭ガ近  
ツキ來ルニ從ヒ日本帝國主義ノ此ノ地帶ヨリソヴェート露西亞ノ  
攻撃ト中國勞農革命干涉ノ爲ノ戰略的準備ハ成長シ往クモノデ朝  
鮮民衆ニ對スル經濟的搾取ト政治的暴壓ハ激甚ノ度ヲ増大シツツ  
民族改良主義及官認社會主義トノ聯結買収ニ依ル革命運動ノ分裂  
政策ハ到ル處テ顯露スル

一五 茲ニ朝鮮××主義者ノ國際的任務ハ重大ナルヲ覺ユルト共ニソ  
ハソヴェート聯邦及中國勞農革命ノ擁護ト支持、進ンデハ世界無  
産階級及被壓迫民族トノ聯合ニテ凡ユル改良主義幻想ヨリ勞農大  
衆ヲ脫離セシメ否一層積極的タル闘争ヲ展開シ以テ民族解放ト共  
ニ勞農民主獨裁ノ樹立ヲ經テ勞動階級獨裁ニ而シテ所謂全目的ヲ

達セネバナラヌ。



(二) 現下ノ朝鮮情勢ト革命ノ特質ニ關スルテーゼ

甲 現下ノ朝鮮情勢

日本帝國主義ノ政治的支配ト朝鮮文化ノ非自主的發展

一、日本帝國主義ニ依ル只今迄ノ朝鮮統治方策ノ侵略的官僚機關ガ國家ヲ公々然ニ直接ニ統轄スルニアツタノタ。日本帝國主義ハ形式的ニモ本土人民ノ或種階級ニモ其ノ主權ノ分與ハシナカツタ朝鮮總督府ノ協議機關(中樞院)ハ任命サレタ朝鮮封建貴族ノ親日的代表人物ヲ以テ構成サレテイルガコハ朝鮮資本家ト自由知識分子ノ層ニ迄何等ノ支持又ハ聯絡モ持ツコトハ出來ナイ

二、朝鮮統治様ヲ其ノ一手ニ掌握セル日本帝國主義ハ朝鮮革命運動ノ鎮壓ト一般軍事的目的ノ爲豫任サレタ巨大ナル日本軍隊、警察及其ノ手足タル在郷軍人會、國粹會、青年團、消防組等ノ武装力ヲ

6

以テ闘争スル民衆ヲ抑壓スル際所謂「治維法」「制令第七號」「出版法」等ノ類例無キ惡法其ノ他形式的ニ適用シ檢舉、拘留、長期豫審ト處刑、拷問、虐殺等ハ專行スルノミナラズ他ハ其ノ所謂法律ニ依據スルコトナク直接生命ヲ奪フコトアルヘク言論、出版集會、結社ノ目的ハ余地ナク否定サレテオルカ特ニ彼等暴壓ノ主力ハ朝鮮無産階級ノ頭腦テタル××ノ破毀ト其レニ依ル革命運動ノ鎮壓ニ向フコトヲ忘レテハナラヌ

三、而シテ日本帝國主義ハ朝鮮民衆ヨリ巨大ナル量ニテ搾取スル税金其ノ他公課ヲ主トシ朝鮮民衆ヲ抑壓スル爲ノ諸費用ニ充當スル外ニ彼等ノ産業政策ノ爲ニスル産業補助費ニ支出スルヲ根本方針トシ朝鮮人教育費ノ小額編成ト諸他周到ナル策略トシテ朝鮮文化ノ自主的發展ヲ障害スルヲ以テ學校ノ新設ヲ制止シ兼ネテ既設學校

へノ入學ハ親日的財産家ノ子弟ニ限リ官立専門以上ノ學校ハ「共  
學」ナリトノ名目下ニ日本人學生ヲ多數入學セシメタルト同時ニ  
入學セル學生等ニテ社會科學ノ研究又ハ學生自治權ノ獲得ヲ主張  
スルカ授業料ノ滯納ノミアレハ退學ノ處分ヲ受クル事トナリ勞働  
夜學私設學術講習會等ノ新設又ハ存續ト學術技藝ノ研究機關ヲ設  
置スルニモソレヲ禁制シ普通學校時代カラ日語ヲ教授スル

四併シ一日本帝國主義ハ現在ニ於テ未タ微弱テハマルガ將來ニハ大  
キナ復雜ノ可能性ヲ持來ル勞働者農民ノ廣大ナル戰線ガ自己ニ對  
立スルヲ見テ若干ノ徵候特ニ中國革命ヲ經驗シタル後ニソレヲ判  
知シ資本家トブルジョア知識分子ノ若干ノ部分ヲ自己ノ侵略機關  
トシテ引入レ自己ノ味方ニ接近セシムルゴトニ因リ其ノ朝鮮ニ於  
テノ地位ヲ鞏固ニシ現著ニ保證セムト準備シテ居ル

7

少シ遠視ヲ持テル日本ノ代表者等ハ朝鮮ニ於テ殖民地的制度ト發  
展サルル革命ノ現在ノ衝突ニ單純ナル警察的方法ニテハ精算スル  
コトノ得サルヲ理解シ朝鮮ニ於テ部分的改良ノ實現ノ必要ヲ公開  
的ニ發展スルコトヲ始メタリ

五現ニ日本帝國主義ノ民族改良主義者又ハ官認社會主義者ニ對スル  
買収、聯結ハ到處テ顯露サレ所謂自治運動「公民權獲得運動」ヲ標  
榜スル實踐的行動ハ公然ニ抬頭スルヲ見ルコトヲ得

六朝鮮經濟ノ支配權ハ日本金融資本ノ手中ニ掌握サレテ居ル些少ナ  
ル範圍ノ米國ト英國ノ資本ガ投資サレアルモ特別注意ノ餘地ナキ  
此ノ外國資本ノ投資ヲ除ク外ニハ日本資本ガ何レモ最も重要ナ地  
位ヲ占領シテ居ル運輸（鐵道、船舶）鑛山業對外貿易、銀行ト凡

ユル信用貸付及貨幣、体係、織物、セメント、皮革、燐寸、砂糖ノ若干ノ工場蒸留、製紙、製油等ノ多少大ナル製造所等ノ總テノモノガ皆日本人ノ手中ニ掌握サレテ居ル併シ日本帝國主義ハ農村經理ノ部門ニ於テモ非常ニ強大ナ支配權ヲ持ツテ居ルカラ水利事業拓殖地帯林管漁業ノ巨大ナ範圍、煙草其ノ他ハ日本帝國主義ニ支配サル

七併シナガラ日本帝國主義ノ侵入ハ朝鮮在來ノ生産關係ヲ根本的ニ破毀シタニ拘ラス近代の産業ノ發達ハ未ダ甚シク幼稚ニシテ輕工業ト需要品工業モ龜ノ歩テ發展シ現代の大機械工業ノ工場ハ屈指シテ計算スルコトヲ得ヘクハ日本帝國主義ガ侵入セル以來農民ノ家庭手工業ヲ急激ニ破滅シナガラモ朝鮮市場ノ爲ノ工場ヲ大部分ハ日本カラ設立サレタ爲タ

八日本帝國主義ハ併合以來朝鮮ノ産業ヲ發展セシメタルト又近來計劃實施中ニアル鐵道網敷設、水力電氣會社大窒素肥料工場等ガ完成サルル曉ハ朝鮮産業ノ面目ガ一新サルルコトヲ誇ツテ居ル併シソレハ朝鮮産業ノ生産力ノ發展ノ可能ヲ剝奪シ工業ノ發達ヲ障害シテ居ル

九而シテ日本帝國主義体係内ニテノ朝鮮ノ役割ハ農産原料ノ後備地帶ト日本工業販賣市場トナリ日本市場ニ白米ヲ供給スルニ重要ナ意義ヲ持ツト同時ニ彼等金融資本ノ營養地帯トナツテ居ル

一〇少シ簡明適切ニ言ヘハ日本帝國主義ノ朝鮮ニ對スル不絶ノ資本輸入、鐵道、港灣ノ敷設修築産米増殖、棉花栽培、養蠶獎勵等ハ皆朝鮮ノ原料ト市場ヲ掠奪シ大陸進攻ヲ便ナラシメントスルニ在ル

農村土地ノ集中ト前資本主義的搾取

二日本帝國主義ハ朝鮮ヲ併合スル以前所謂保護政治時代ニ既ニ農工銀行ノ株券ヲ當時韓國政府ニ負擔セシメ國有土地ヲ拂込金ノ代ニ引受ケタルニ因リ巨大ナ面積ヲ收奪シタルヲ始トシ併合ニ依ル統治權ノ掌握ニテ舊韓國ノ驛屯土其ノ他國有地全部ヲ引續キ強奪シタルハ勿論併合後幾モナキ一九一二年ニ朝鮮總督府ハ「不動産登記令」ヲ公布シ「不動産證明令」朝鮮民事令ヲ實施スル一方「土地調査令」ヲ公布シ「私有權ノ保護」ヲ宣言スルト同時ニ土地私有ノ確立ヲ完成スル時其ノ所謂私有權ノ確立ハ全國的土地ノ再分割ヲ以テ實現シタルヲ以テソハ朝鮮ノ土地私有形態ガ部分的ニ發達セル時ニ土地調査ニ藉口シ所有權ノ不充分、申告手續ノ非履行等ヲ條件トシテ朝鮮農民ノ土地ヲ直接收奪又ハ日本人ニ再分配スルト同時ニ其ノ私有權ヲ鞏固ニシタモソタ其ノ他鐵道用地軍用地ト爲シ又

東拓不二其ノ他個人(主ニ日本人)ノ威脅詐欺抵當等ノ方法ト金融機關、水利組合、過重ナル税金等ニ依ツテモ朝鮮農民ノ土地ヲ少カラズ強奪シタカラ現在朝鮮ノ優良ナ耕地ハ三分ノ一以上ガ日本人ノ手中ニ入りタリト公稱シ林野ノ重要ナ限澤ノ大部分モ亦朝鮮總督府或ハ日本資本案ニ獨占サレタ

三而シテ朝鮮農村ニ於テ地主商人高利貸企業者投機業者一此ノ數字中日本人ニ土地ノ移轉過程ト各種形式、各樣出身ノ地主ニ土地ノ集中過程ト農民ノ多數ニ於テ土地ノ縮少細分ノ過程カ進行サレテ居ル。

三而シテ朝鮮ノ農業關係ニ於テハ商品的貨幣的關係ノ急速ナ發展ニ拘ラズ其ノ搾取ニ於テ資本主義前方法ガ優越タ全畜ノ六四、四ト全田ノ五七、四ハ小作人ニ依リ耕作サルカ小作人中ニハ自体

需用ニ因ル小作カ優越タ自然地代勞力ニテ小作料ノ支拂、地主ト小作人ノ半封建的關係搾取ノ奴隸的形式ト方法ハ小作關係ノ特質タ地代ヲ收入スル小數ノ地主層カ絕對多數ノ飢饉ノ小作人ヲ搾取スル獨立ノ農民ハ租稅高利貸金ト商業的欺瞞、不正計算、不正度量衡ノ方法ヲ搾取サルカラ酷甚ナル搾取ハ多數農民ヲシテ經理ト勞力ノ再生産モ不可能トナル

一四故ニ水利施設ノ組成、畝ノ計劃的擴大林業ノ若干ノ整理ト及極メテ小サキ農業改良ハ朝鮮民衆ノ生活ヲ改善スルニ引導スルコトガ出來ヌガソレハ日本帝國主義ノ酷甚ナ搾取ト併行スル爲メ

一五日本帝國主義ハ朝鮮ヲ單ニ經濟的ニ搾取スルノミナラス租稅、國稅、專賣利潤等ノ非經濟的方法ニテ巨大ナ量ヲ搾取スル之ニ伴ヒ日本帝國主義ハ國家機關ニ於テ支配的地位ト決定的地占ノミナラ

10

ズ多少ニ係ラズ一般的ニ重要ナ地位マテ占領シテ來タ

一六日本帝國主義ハ絕對ノ權力ヲ持チテ朝鮮民衆ノ上ニ立チ朝鮮總督府ニ收入スル稅金以外ニモ所謂地方費、面費、學校負擔金、農會費、畜産組合費、消防組費、漁業組合費、衛生組合費、水利組合費、林業組合費又ハ強制賦役強制寄附等ノ方法ニテモ少カラズ搾取スルモノデ又朝鮮總督府ハ其自身ガ巨大ナ産業資本家トナリ六百四十七万町歩ノ廣大ナ土地（一九二五年）ト八十五箇所ノ大工場（一九二七年）ヲ所有スル外鐵道ヲ運轉シ郵便電信電話ヲ經營シ煙草人參、鹽、阿針及モルヒネヲ專賣スル

乙 現段階ノ朝鮮無產階級革命階級ノ地位ト革命ノ

性質及動力

一七朝鮮ニ於テノ一地主的搾取ノ壓迫ト日本ノ金融的統治機關ノ壓迫



ハ商業の高利貸の資本ノ奴隷的資本主義前搾取方法トモ亦聯結スル此ノ經濟的助力即日本資本ノ支配農工商業ニ於テ本土資本ノ從屬的役割大農經理ノ大ナル投資等ハ朝鮮ノ階級的鬭争ニ於テ階級ノ位置ト役割ヲ決定スル

「工業發達ノ幼稚ト微弱ニ依リ朝鮮ノ勞働階級ハ今尙甚々弱イソハ單ニ數的ニノミ大ナラザルノミナラズ未タ甚シク農村ト聯結サレテ居ル他方ニ於テ日本資本主義ノ支配的、統轄的、決定的、役割ニ依リ大土地所有者ハ既ニソレト密接ナ同盟ヲ成シテ居ル大土地所有ト聯結或ハ日本資本ニ直接從屬サレテ都市資本家ト工業、販賣の高利貸金及商賣トハ漸次之ニ接近シテ居ル」

「朝鮮人民ノ絶對多數トハ經濟的ニ奴隷化サレテ警察的テロ的制度ニ蹂躪サレ據ル所ナクナツタ農民群衆タカラ彼等ハ革命以外

ニハ自己ノ生活向上ヲスル何等ノ餘地モ持ツコト出來ナカツタ

八、「故ニ朝鮮革命ハ其ノ社會的經濟的内容ニ於テ單ニ日本帝國主義ノミナラズ朝鮮ノ封建主義迄反對スル方向ニ進ムヨウニナルノタ其ノ革命ハ資本主義前餘物ト殘滓ノ破毀ニ向ヒ農業關係ノ根本的變革ニ向ヒ進ムヨウニナルカラ朝鮮革命ハ土地革命トナラザル筈ガナイ帝國主義ノ撲滅ト土地問題ノ根本的解決ガ朝鮮革命ノ發展ノ第一段階ニ於テ根本的主觀的歴史的内容デアルカラ此ノ意味ニ於テ朝鮮革命ハ資本主義的トナルモノダ」  
而シテ現在既ニ朝鮮ノ大土地所有者ハ日本帝國主義ノ嚮ヲ儀メラレタ状態トナツテ資本家ノ多數カト特ニ中國革命ノ經驗後ニ於テ好成績ニアツテコソ日本帝國主義ノ民族改良主義的反對派ヲ代表スルニ至ルヲ以テ其ノ聯結セル知識階級ノ部分ニモ亦影響スル

茲ニ現段階ニ在ル「朝鮮」××主義運動ノ根本路線ハ一方ニ小資産階級民族運動ニ對スル勞働階級革命運動完全ナル獨立性ヲ保全シ其ノ鞏固ニスルト同時ニ他方ニ於テハ民族革命運動ヲ妥協的民族改良主義ニ即資産階級民族運動ヨリ分界セシメテ其ノ動搖性ヲ不斷ニ又無慈悲ニ暴露シソコニ階級性ヲ賦與スルニ在ル

一九「凡ニル殖民地國家ノ如ク朝鮮ニ於テモ凡ユル階級ガ最モ徹底セラル反帝國主義ヲ勞働階級其ノ中第一ニ工業勞働者ノ將來ノ成長ト組織ニ從ヒ革命運動ニ於テ其ノ指導的役割ヲ生育シ共產主義運動ノ爲ノ丈夫ナ土台モ造成サルモノタ

勞働階級ノ第一ノ同盟軍ハ勞力農民タ現在朝鮮ニ於テ貧農層ハ農業勞働者ノ如ク農村ニテノ最モ革命的部分トナルカソハ日本帝國主義ノ警察的テロ的制度ニ蹂躪サレツツ奴隸的飢饉的生活ヲ繼續

スルニ依リ革命以外ニハ生クル道ナキ爲ニシテ中農ハ帝國主義支配ト封建的遺制ニ依ル二重ノ搾取ヲ受クルニ依リ帝國主義ノ税金收奪産業政策物價政策又ハ水利組合費、農會費等々ノ爲ニ又累進的タル高利貸金ヲ爲其ノ零細ナ獨立的經營ハ極度ノ生活底ヲ招來シ財產ノ私有ヨリ生スル勞働者トノ矛盾ハ縮少サルルカラ勞働階級ニ聯接シ反帝、反封建ノ戰線ニ立ツヨウニナルソタ

富農ニ於テハ其レカ現在農村ニテ帝國主義支配ト封建遺制ニ反對シ闘争スルヨリモ農民大衆ニ對スル封建的搾取者ニ高利貸搾取者トナリアルカラ現在朝鮮テノプロレタリアト農民トノ革命的同盟ハ嚴密ナ意味ニ於テプロレタリアト中農以下ノ結合ヲ言フノ

勞働階級ノ第二ノ同盟軍ハ都市小資産階級ニ即都市手工業者ト小

商人層々彼等ハ日本帝國主義ノ政治的壓迫ト經濟的沒落ニ因リ反帝國主義勢力トナルノデアルカ常ニブルジョアトプロレタリアノ間ニ徘徊逡巡スル筈タカラ信賴シ得ル同盟者ヲハナイ爲プロレタリアノ階級的指導ニ俟ツヘキ所多イ

#### 中心的闘争目標

ニ現段階ノ朝鮮革命ハブルジョア民主主義的タ併シ朝鮮ノブルジョア民主主義革命ハ先進國ノソレト基シク區別サレルガソハ民族的解放ヲ第一ノ要義ニ又朝鮮ノ封建主義ニ反對シツツモ併シ世界無産階級ノ革命期ニ於テソレト弱少民族及ソヴェート聯邦ノ支持ト聯合ヲ以テ微弱ナル民族資産階級ヲ側ニ置テソレトモ闘争シテガ  
ラ労働階級ノ指導下ニテソレト農民ノ革命的結合ニ依リ社會革命ノ過動ニ準備スル所ノ勞農民主獨裁ノ樹立ヲ目標トスルニ特質ヲ

#### 持ツテ居ル

労働者農民ソヴェートノ樹立ハ即労働者農民ノ革命的結合ヨリ産出スル政治権力ナルガコレハ新シキ國家形態タ第一ソレハ吾等ニ労働者農民ノ武装権力ヲ與フル一第二此機關ハ多數民衆ト密接ニ聯結スルニ依リ自己ノ錯誤ヲ認識シ意外ノ場所ヲ回復スルニ容易ナモノデ一第三此機關ハ民衆ノ意見ニ依リ選出又ハ交代スルモノタカラ官僚主義ノ弊害ヲ除去シ一第四ソレハ各種職業間ノ密接ヲ聯結ヲ實現スルニ依リ官僚主義ノ除去ト共ニ大衆中ニ根ヲ張ル各種ノ改良ヲ促進シ第五ソレハ壓迫ヲ受クル労働者農民ノ中デ最モ覺悟アリ活動的ナ進歩的部分ノ組織的形式トシテ只今迄政治的生活ト歴史ヨリ除外サレタ凡ユル被壓迫階級ノ廣汎ナ大衆ヲ其ノ前衛カ此機關ヲ通シ教育訓練シ指導シ得ヘク第六ソレハ議會主義ト

民主々義ノ二長所ヲ兼ネタ民衆ノ代表ヲ選舉シ立法及行政ノ權利ヲ同時ニ持ツコトニナルブルジョアの議會政策ト比較セバソノ進歩ハ民主々義ノ發展上ニ於テ世界的ニ歴史的意義ヲ持ツコトニナル(レーニン)

ニソレガ故ニ現段階ノ中心的闘争目標ハ左ノ如シタ

- 1 朝鮮ノ絶對的獨立(日本帝國主義統治ノ完全ナル打倒實現)
- 2 勞農民主獨裁(勞働者農民ノソヴェート政府)實現
- 3 勞力農民ニ無償土地(官有及地主ノ土地沒收)ノ分與
- 4 一切大規模生産機關及獨占的企業(官公署及日本人所有ノ銀行工場、鑛山、鐵道、船舶等ノ沒收)ノ國有化
- 5 世界無產階級被壓迫民族及ソヴェート聯邦トノ聯合其ノ外日常闘争ノ小標語ハ必ス此ノ中心的目標ニ聯結スル如ク

單一累進所得稅ノ設定ト一切雜稅ノ奪取勞働者農民ノ負擔償還拒絶

(三) ×再建ノ組織の方針ニ關スルテ一ゼ

甲、組織ノ意義

一、プロレタリアートハ權力ヲ獲得センガ爲ノ闘争ニ於テ組織ノ外ニ何等ノ武器モ持ツテイナイノタ、資本家世界ノ無政府競争ノ支配ニ依リ解体サレ、資本家ノ爲ノ強制労働ニ依リ抑壓サレ、絶ヘス貧困ト無智ト墮落ノ深淵ニ陥ルプロレタリアハマルクス主義ノ原則ニ依リ創造サレタル其ノ知識的統一力幾百萬労働階級ノ一單隊ニ迄線上スル所ノ組織物質的統一ニ依リ鞏固ニナルモノナルガ爲メ機マシ屈セス此ノ勢トナリ又不可避的ニ左様ニナルノデアアル。(レーニン)

二、××××××党任務

三、××××××労働階級ノ一部分、然シ其ノ最モ進歩的ナル最モ階級

意識アル、又ソレガ爲ソノ最モ革命的ナル部分デアアル、××××ハ最モ階級意識アリ、最モ勇敢デアリ、最モ先見アル労働者ニ選擇サレテ結成サレタモノニテアル、××××ハ労働階級ノ利害ト異ル何等ノ利害ヲ持タナイノタ××××ハ其レガ全体トシテノ労働階級ノ全歴史的全行程ヲ看取シ、又個々ノ団体、個々ノ職業トシテノ子ヤナク、全体トシテノ労働階級ノ利害ヲ擁護スルガ爲其行程ノ總ユル轉換點ニ於テ奮闘スル點ガ労働大衆ノ他ノ部分ト區別サレルノタ、××××ハ其援助ニ依リ労働階級ノ最モ進歩的部分カプロレタリアート及半プロレタリアートノ大衆ヲ踏ム行程ニ導ク所ノ組織的政治的樹林(國際××××第二回大會)一

三、ソレガ爲メ××××ハ恒ニ労働階級ノ先頭ニ於テ其ヲ導カネバナラヌモノデアリ、又ソレガ爲ニハ労働者、農民一切被壓迫大衆ニ依

リ結成セル公開的、半公開的、非公開的、団体其他ノ機關ニ迄分派ヲ形成シテ闘争ヲ指導スルノダ

丙、過去ノ我ガ×ノ組織上ノ缺陷

四朝鮮ニ於テノ階級×結成運動ハ國際××カ創立サレタル翌年タル一九二一年ヨリ始マリ、以來頗ル雜沓ナル過程ヲ辿ツタカ朝鮮最初ノ前衛的組織タリシニ上兩派ガ總ニル主体的條件カ未だ然セル時ニ殊ニ朝鮮無産階級闘争ノ本場ニアラザル國外ノ數ヶ所ニ於テ各自別立シテ民族運動ノ派の傳統ヲ棄テザル封建的小ブルジョアの知識分子ハ土地ニ構成シテ無原則ナル派争ヲ起端セルハ云フ迄モナイケレ共、其後層生疊出セル諸党派ニ於テモソウル派ハ小ブルジョア知識群トルンペンプロレタリアヲ多數ニ、火曜派ハ兩派階級知識青年ヲ土台ニ、エムエル派ハブルジョア知識分子ヲ中

軸トシテ結成シテ、思想團體ヲ母体トセル思想團體の運動ヲ繼續シツツ派争ニ熱中シテ來タノテアル。

瓦然シ共夫ノ時真正ナルボルセヒイキ×産出ノ前段的準備的役割ヲ盡シテ來タレハ否定シ難イモノテアリ又辨證法唯物論ノ歴史主義ニ立却シテ考察スル時ニ於テ、彼ノ一九二二年革命的社會主義ニ依リ×ノ民主的集權主義ト國際的規律ヲ背クニ至リタル社會民主主義的企圖ニ對立シテソレヲ掃蕩スルニ努力セル共產主義者ノ傳信ト路線ヲ探シ出スニ困難デアツタノデアアル。

六然レドモ朝鮮××ハ一九二六年ニ亘ル社會民主主義的ブルジョア知識分子ノ潜入ニ於テ最モ惡質ノモノニ變轉セルヲ以テ其改築ハヨリ一層一困難ヲ招來シタノデアアル。

丁、國際×ノ我再建ニ對シ原則的指示

七、然ル故ニ一九二八年十二月國際××ノ朝鮮問題ニ對スル決定ハ

第一、從來朝鮮××ハ殆ト全体ガ知識階ト學生ヲ以テ滿員トナツ

タ爲ニ××主義者等ハ自己ノ隊列ニ第一次ニ工業労働者

次ニ生産ト分離セ得ザル貧農民ヲ引入レテ、×ノ社會的構

成ニ改善シタノタ(×ノ土地變換)

第二、今迄持ツテ居タ偽科學的言句ヲ除去シ直正ナル××主義的

世界觀ト眞實ナル科學的、マルクス主義的レーニン主義的

思想ヲ研究ニ依ル××主義的見地ヲ以テ意識的ニ斷ヘス×

×主義ノ熱誠分子ヲ形成シ(×主義的團結)

第三、過去朝鮮××ノ屢次ノ瀕没ハ其秘密保障事業ヲ圓滿ニス

ル事ヲ知ラナカツタノヲ表示スルノタカラ、直正ナルボル

セビイキの基礎ノ組成ト主義的團結ニ依リテノミ此病弊ヲ

完成スル事カ出來ル、(×ノ秘密保障トボルセビイキの基

礎ノ上ニ於テ組成)

第四、ソレニ依リテノミ派争モ根絶スルト同時ニ眞正ナルボルセ

ビイキ××ヲ再建スル事ガ出來ルト(派争ノ根絶ト×再建)

云フ事ハ原則的ニ指示シタノテアル。

戊、我等ヲ當面セル組織的課業×ノ土地變換

ハ朝鮮××主義者ノ當面セル中心の任務ハ×ノ再建ニテリ、×再建

ノ爲メトシテノ第一次の課業ハ從來我×知識分子構成ト労働者の

指導勢力ニ變換スルニアルノタ

九、ソレハ産業労働者ト生産労働者ヨリ分離シ得ザル貧農民中ニ於テ

階級的又ハ革命的意識ト能力カ優秀ナル分子ヲ引キ入レル可キテ

アルカ今ニ於テ尙不足ヲ感スル赤イインテリゲンチヤヲ成員トス

ルカ爲メノ努力ガ亦少クテハナラヌ

十、ソウシテ結集サレタル×員ハ組成ノ總体―組織ノ―集合体トナリ活動、闘争スルニ依リテコソ、×内ノ動搖ヲ防キ其ヲ鞏固ニシ又×ノ労働大衆ニ對スル指導モ、廣汎ニ多面的ニ、効果アル様ニスル事ガ出來ルノタ、

十一、××ノ×員ハ×ノ綱領ヲ承認シ、自ラ其ノ組織ニ参加スヘキナルノミナラズ×ヲ物質的ニモ支持セネバナラヌ爲メ之ニ對スル從來ノ病弊ヲ克服スルノガ土埒變換ノ要件ニモナルト云フ事ヲ忘レテハナラヌ。

×ノ主義的團結

十二、組織ノ過程ハ同時ニ闘争ノ過程テアル、從テ組織ヲ離レタル闘争、闘争ヲ離レタル組織ハナイノテアル。眞正ナルボルセビイキ×

ノ獲得ハ労働者農民ノ經濟的闘争ヲ革命的理論ニ依リ擴大強化シ一切ノ非階級的殘滓ニ對スル徹底的批判ヲ遂行スルニ於テコソ可能ナラシムルノデアアル。

十三、然ル故革命的理論ハ、結局組織問題ニ迄向上サレルモノデアアルガ過去ノ朝鮮××主義者ノ理論的試驗ハ、其ノ基準ニ到達シ得ス外形上似而テラニル僞科學的言句ヲ擧ケ闘争セル所多カリシハ事實デアアル。此處ニ朝鮮××主義者ハマルクス主義的レーニン主義的理論ノ武器ヲ以テ其ノ自体ヲ抑揚結晶スルト同時ニ現時期ニ於テ最モ盛熾スル兩班社會主義民主主義社會投機主義ト共ニ官認社會主義ニ對スル闘争撲滅ニ於テノミ、×ノ鞏固ト其ノ全階級ニ對スル指導ノ完璧ヲ期スル事ガ出來ルノタ

十四、朝鮮無産階級革命ノ勝利ガ目臆ノ間ニ近カ付イタノヲ予想シ、又



然ラズト雖當面ノ利己的慾望ニ引カレテ、勞働階級運動ニ參加シテオツタブルジョアの、小ブルジョアの知識分子等ハ日本帝國主義ノ日色恐怖ガ甚クナツテ行クニ從ヒ戰線ニ於テ脫離スルカ然シプロレタリアートノ階級意識ハ強化シ、夫レト農民ノ鬭争ハ向上シタノタ隨テ我等ニハ最モ注意的團結シ重要視シナクツテハナラヌ任務ガ賦與サレルノデテル

×ノ規律確立

十五階級ノ先頭ハ×テアリ×ノ先頭ハ中央執行部テアル。×員ノ階級の革命的意識水準ガ均一ナリトセバ順次幹部ニ任スル事モ出來ルケレトモ其ノ程度ノ事實上ノ差異ガ、特定サレタル中央幹部ノ指導ノ下ニ於テ×事業ヲ進行スル事ニスルノダ

十六ソウシテ×ハ民主的集權主義ト嚴格ナル規律ノ原則ニ於テ運轉サ

レルノダ

十七×ハ其ノ内ニ一切ノ分派及集團ノ存在ヲ禁スルカ、ソハ鐵ク如キ規律ノ確保ト一致ナル行動ヲ以テ×事業ノ完璧ヲ期スルニ於テ事デアル。

十八然レ共組織ハ行動ノ統一デアリ、又思想無キ組織ハ勞働者ヲブルジョア權力ニ追從セシムルモノナルガ故ニ、討論及批評ノ自由ハ確保サレネバナラヌ。

×員ハ細胞其他ノ定規的會合ニ當面ノ問題ヲ討論シ×指導機關ノ活動ヲ批評シ、其ノ自身ハ獻策ヲ提議スルノデアルケレ共、所定ノ手續ヲ經テ決議サレタル事件ニ對シテハ、何等ノ保留無ク實行スヘキ義務ヲ負フ様ニナルノダ。

十九殊ニ現時機ニ於テ我等×ハ規律確立ト共ニ秘密保障ヲ生命トスル

ニ依リテノミ夫レヲ鞏固ニシ、亦暴歴ニ堪ユル事ガ出来ルノダ  
然ルニプロレタリアートハ其ノ自身ノ労働体系ニ於テ組織ト規律  
ガ缺如シテハナラヌ事ヲ體驗シ實行スルノデアアルガ智識階級ハ概  
ネ之レヲ嫌忌スル事ニナルカラ、我等ハ常ニ之レヲ考慮シテ規律  
ヲ確立スルニ於テ、X内ノ非階級の分子ヲ克服又ハ驅逐シ得ラル  
ヘキヲ忘レテハナラヌ。

#### Xノ細胞改築

二〇從來我ガXノ知識分子の土壌ノ上ニ結成サレテアツタ事ヲ、労働  
者の構成ニ變換シタルニ從ヒX細胞ノ改築問題カ矢張り提起サレ  
ルノダ

二二Xノ基本的組織ハ細胞トナルノダ、ソハ工場、鑛山、鐵道、船舶  
車庫、埠頭、農場、其他職場ニ於テ組織スヘキモノナルガ其中ニ

20

モ「總テノ工場ハ實ニ我等ノ要塞トナルノダ

二三然シXノ細胞ハ決シテ機械的ニ轉入セスシテ闘争ト組織ト不可分  
的關係ニ於テソレヲ建設セホバナラヌ。

二四非公開的ナル我ガXノ細胞ハ、雇主ト其ノ番犬等ニ見附カラヌ様  
形成スヘキハ勿論ナルモ、其活動スル足跡ハ労働者ニ明ニ知ラセ  
ネバナラヌ。

#### 大衆的団体トノ聯結

二四労働組合、農民組合、工場委員會其他關係各団体等ハ實ニXノ貯  
水地ニナルノタカラ、Xハ其ノ意識ノ初步的水準ニ達シタル大衆  
ヲ廣汎ニ引入レ、活潑ナル闘争ヲ指導展開スルニ於テ、Xノ鞏固  
強化ヲ實現シナクテハナラヌ

二五然シ是等ノ団体ハ群衆的、公開的闘争ノ舞台ニ進出スル方略ヲ講

究スルニ××主義ノ努力カナクテハナラヌ事ハ勿論ナルモ、目下朝鮮ノ形勢ニ於テ、非公開的、半公開的、大衆團體ノ結成ト闘争ガ矢張り公開的闘争舞台ニ進出スル方策ニモナル事ヲ知り實行セバナラヌ、

二六×カ此等ノ大衆的團體内ニ分派ヲ形成スルニ於テ所期ノ目的ヲ遂行セバナラヌ事ハ更ニ云フ必要カナインダ

### 結語

二七我等ハ十二日ノ決定ガアツタ後其ノ決定ノ原則ニ基據シテ、×再建ノ機關ヲ結成シ唯一的ボルセビイキ×ノ建設ニ努力シテ成功ノ歩ヲ進メ居レルガソノ組織の方針ハ以上ニ列記セル所ヲ基準トシテ來タノデアリ、又今後最モ左様ニ爲サバナラヌ

二八我等ノ組織の方針ハ何處迄モ、階級的基礎ニ立脚セルモノナルカ

故ニ×再建ノ機關ハ朝鮮無産階級ノ闘争本場タル内地ニ置キ、海外中心ヲ總テノ企圖ニ反對闘争シテ、ソレヲ克服スルニ至ツタガコハ組織ト闘争ノ不可分の關係ヲ重視セル我ガ組織方針ノ成果ト斷定スルノタ

二九又我等ハ老×員大會ハ熱誠××主義者大會等ニ依リ從來ノ知識群ヲ中心トシテ×再建ノ大聲ヲ揚ケツツアツタ投機的、派争的企圖ニ反シ初メヨリボルセビイキ的革命的傳統ノ繼承者ヲ奇麗ニ選ヒ出シテ×再建ノ機關ヲ結成シ、又労働者ヤトロノ樹立ニ努力シテ結果ハ實踐ニ於テ其ノ方針ノ正當性カ證明サレルモノニシテ亦他ノ總ユル企圖ハ克服サレタノデアル

(四) 民族解放協同戦線ニ關スルテーゼ

甲 現段階ノ朝鮮無産階級革命ト動力

一、朝鮮ノプロレタリアートノ現段階ノ革命ハ民族解放革命ノ段階ヲ然シ其ノ革命ハ社會的經濟的内容ニ於テ日本帝國主義ノミナラズ朝鮮ノ封建主義迄反對シ

資本主義前餘物ト殘滓ノ破毀ニ向テ進ムコトニナルカラ茲ニ朝鮮革命ハ其ノ發展ノ第一段階ニ於テ帝國主義ヲ撲滅ト土地問題ノ根本的解決ト徹底ナ民主々義的解決ガ其ノ根本的歴史的内容トナルモノデ此ノ意味ニ於テ朝鮮革命ハブルジョア民主々義的トナルモノタ

併シ朝鮮ノブルジョア民主々義革命ハ過去先進國ノソレト區別サルルカ其ノ要求スル權力ガ労働階級獨裁ハ出來タガ社會主義革命

ノ過渡ニ準備スル所ノ「勞農民主獨裁」トナルモノデ從テ朝鮮ノ民族解放運動ハ労働階級ノ獨權下ニ反帝反封建ト同時ニ民族資本家トモ鬭争スルコトニナル

二、朝鮮ノ現在ニ於テ大土地所有者ハ既ニ日本帝國主義ニ引摺ラレル所トナリ民族資本家ノ多數ガ漸ク日本帝國主義ノ民族改良主義的反対派ヲ代表スルニ依リ其レニ聯結サレタ知識階ノ部分ニ又影響ガ及フモノデ從ツテ現段階ノ朝鮮革命ニ於テ反帝反封建ノ階級層ニテ鬭争ニ動員シクノ堆進力トナルコトハ労働者農民(嚴密ナ意味ニ於テノ中農以下)都市小資産階級(都市手工業者及小商人層)

乙、朝鮮無産階級ノ戰略的任務ノ爲ノ協同戦線ノ戰術

三、階級ノ頭ハ党ターノ階級ノ党ハ一ツアルノミタ無産階級ノ頭ハ×

××タ朝鮮ノ民族解放運動ガ労働者ノ覇權下ニテ進展スル以上其ノ革命ノ擔當者ニシテ指導者ガ××タルコトハ贅言スル迄モナイ殊ニ現段階ノ民族解放闘争ハソレカ將來労働階級獨裁ノ樹立ヲ準備スル過渡的戰略的任務ヨリ規定サレタモノデ民族解放協同戰術トシテノ反帝反封建ノ勢力ヲ網羅セル××ノ別働隊的共同闘争機關タカラ之レハ決シテ党的形態ノモノニ組織シテハナラヌモノデアルコトヲ深刻ニ認識セネバナラス

四××ハソガ現段階ノ民族解放革命ニ於テ唯一ノ正當ナル指導者ナルカ爲其ノ綱領中ニ抱合セル反帝反封建ノ要求ヲ高ク上ケ全被壓迫大衆ヲ引卒闘争スルニ依リ動員サレル労働者ト農民及都市小資産階級ヲ其ノ要求通りノ行動綱領ニ労働者農民ヲ中軸ニ大衆的參加ニ依ル共同闘争機關ニ結集シ以テヨリ一層強力ノ大衆的決戰

ヲ展開スルニ依ツテノミ朝鮮無産階級ノ民族解放闘争ニテノ覇權ヲ鞏固ニシ又段階ノ革命的課業ヲ實現スルコトヲ得ルノダ

五目下朝鮮プロレタリアートハ一方ニテ小資産階級民族運動ニ對スル労働階級運動ノ完全ナル獨立性ヲ保全スルト同時ニ他方テハ資産階級ノ民族改良主義運動トモ分界シ彼等動搖ト不徹底ヲ暴露シ往クノデ其ノ民族解放協同戰線ガ又××ノ政治的路線ニ對立スル民族運動ノ傾向即小資産階級民族主義（左翼民族主義）及民族改良主義ニ對立シ彼等ヲ大衆ヨリ孤立化スルコトハ勿論デアルガ現時機ニ一層抬頭スル兩班社會主義社會民主主義社會投機主義及官認社會主義ノ巧妙ナ言動ニ大衆ガ屬セザル様闘争セネバナラス從ツテ××ハ新幹會、天道教、衡平社等ニ大衆的參加ナキ様スルト同時前衛トシテノ分派ヲソレニ植入シ××ノスローガンヲ煽動

宣傳シテ以テ内部的活動ニテ其ノ中ニ在ル大衆ヲ無産階級團體又ハ其ノ民族的解放協同戰線ニ獲得スルニ於テ畢竟彼ノ團體等ヲ解消セネバナラス

六併シ民族解放協同戰線ノ鞏固強化ハ×××ノボルセビイキ化ト關聯サレルモノデ吾ガ×ノ労働者の構成ノ土拾變換ト主義的團結ノ完成ニ伴ヒ彼ガ又強固ニナルコトヲ忘レテハナラス  
丙、過去協同戰線ニ對スル諸見ノ批判

七民族解放協同戰線ノ結成ハ夙ニ一九二四年ヨリ×××的×××主義者ニ依リ主張サレタモノデ朝鮮ノ各思想團體ガ直ニ之ニ追從セルモノモアツタ併シ此問題ガ大衆的ニ展開サレタノハ一九二五年青總ノ地方青年大會ニ指示セル所ヲ學クレハ大体ニ於テ「社會主義青年會ノ綱領ニ必ス民族的要求ヲ統合スルモ

民族主義青年團體トノ協同提携ヲ實現スルモノデ宗教青年團體ニ對シテハ其ヲ唯物主義ニ轉換スルコトニ努力セヨトノコトクツタ各道ニテ開催セル青年大會ハ此ノ問題ヲ沈重ニ討議シ實踐ニ移スト同時ニ全体無産階級運動ノ民族運動ト協同ヲ決定シ民族解放闘争ノ完璧ヲ期セントシタノデアツク  
之レハ×××ニ依ル民族解放協同戰線ノ具體的ニ把握シ得ザル所ニ缺點ガアツタ無産階級革命運動ヲ民族主義運動ト分界シ鞏固ニシツツ其ノ指導ニ依リ協同闘争ヲ展開スルコトニ依テボルシビイキの面容ガ判然シテ居ル  
併シ此時兩班社會主義者等ハ所謂「一次革命論」ヲ造出シ朝鮮ハ日本帝國主義ヨリ解放サレル即時ニ労働階級獨裁國家ヲ建設スルモノト主張シツツ反宗教運動ノ積極的展開ト共ニ協

同戦線ノ破毀ヲ圖ツタノデアアルガ効果ハ極メテ少カツタ

ハ其ノ后一九二六年ニ至リ、社會民主々義的ブルジョア知識分子等ハ朝鮮×××内ニ潛入シタコトヲ千載一遇ノ機會ニ民興會トノ合同ニテ結成セル新幹會ヲ「單一民族政党」ト規定シ朝鮮民族ハ日本帝國主義支配下ノ單一政党タル新幹會ニ加入シ民族解放ノ爲闘争ヲ展開セネバナラスト主張シツツ「非民族的ニシテ非階級的ダ」トノ標語ヲ擧ケテ立ツタ

次ニ一九二六七年ニ且リ依然×内ニ潜在セル社會民主々義的ブルジョア知識分子等ハ協同戦線ニ對スル見解ヲ一轉シ新幹會ヲ「民族協同戦線党」ニ媒介体ニ規定シ朝鮮民族ハ單一階級デハナイガ其ノ各階級層ノ民族解放ニ對スル要求ガ一致スルカラ何レモ個人的ニ共同ノ政党タル新幹會ニ結集シ闘争ス

ヘキモノト主張シタ

同時ニ彼等ハ其ノ見解ノ各段階ヲ通シ朝鮮無産階級ノ當面政治行動ハ自治運動ノ道アルノミナラズ新幹會ニ依ル其ノ主義ノ實現ヲ劃策スル一便ニテハ東京ニ所謂「自治權獲得同盟」ヲ組織シタコトガアツタ

朝鮮民族ガ原始民族デナイ限リソレヲ單一階級ト認識シ個人的參加ニ依リ單一党ノ結成ヲ主張スルコトヲ夢遊病者ノ誤ニ過キザルコトハ言フ迄モナイガ無産階級ノ頭腦部ニシテ民族解放闘争ノ指導者タル×××ニ依リ協同戦線ノ展開ヲ否認又ハ忘却シ党的形態ノ協同戦線ニ個人的ニ加入シ勞働階級革命運動ノ獨立性ヲ自ラ棄テ彼ニ融合セントスルハ至惡ナル解党的見解タルト同時ニ是等組織上ノ解党的見解ハ又必然的ニ妥

協的改良的政治的行動ノ道ヲ踏マシムル様ニシタコトヲ知ラ  
ネバナラヌ又吾人ハ彼等ノ解党的見解ト對立スルヲ假裝スル  
自稱××主義者ニ依リ實ハ其レニ追隨セル異句同様ノ文字約  
發表ガアツタコトヲ指摘シテ置ク

茲ニ××的主義者ハ彼等ノ非階級的見解ニ對立シボルセビイ  
キ的各線ヲ踏シタカソレハ一九二七年京城ニテ開催セル朝鮮  
社會團體中央協議會ニテ新幹會ハ朝鮮小ブルジョアデーノ政  
党的組織タルヲ規定スルト同時ニ中央協議會ソノモノヲ民族  
解放協同戰線ニ變更シ新幹會ヲ始メ新舊民族團體ト勞働農民  
青年女性衛平等ノ各團體ヲ團體的ニ加入セシメタルモ朝鮮×  
×ノ指導下ニテ××ノ當面入りガンヲ行動綱領トスル爲闘  
争ヲ展開シタト一九二七年一月朝鮮日報所掲「當面ノ政治行

動」ニテ自治運動ノ不當ヲ論スルコトカ其ノ代表的表現サレ  
ル併シ當時却ツテ××内ニ潜在セル社會民主々義的ブルジョア  
知識分子等ハ××的前衛ノ企圖ニ反對シ所謂××的制裁ノ惡藉  
ニテ所謂反常設論ヲ提起シ勝利ヲ得意トスル時ニ滿洲デノミ  
ハ××的前衛ノ主張ニ基ク正當ナ實踐ヲ踏ムコトニナツタコ  
トガ大部分デアツテ自治運動ノ不當ヲ論スル事ニ對シテハ爾  
今一言半句ノ回辭ガ無カツタガ別ニ相互間ニ行フ「自治運動  
ノ不當ヲ踏ムコトガ大部分デアツテ自治運動反駁論」(李友  
秋ノ洪起文ノ自治主張ヲ反駁セルモノ)カ却ツテ巧妙ヲ極メ  
タル「自治運動論」タリシコトハ未タ記憶ニ新大事件

丁、現時期ニ於ケル民族解放協同戰線ノ組織形態ト行

動綱領



九、組織ハ闘争ト交互的關係ニ於テノミ生命ヲ持ツモノヲ故ニ現實的闘争ニ動員サレザル組織ハ嚴密ナル意味ニテノ組織デハナイ茲ニ朝鮮無産階級ノ民族解放協同戦線ハ如何ナル組織ヲ以テモバ××ノ指導下ニテ提起サレル

十、現段階ノ民族解放闘争ハ労働階級獨裁ノ樹立ヲ準備スル戰略タル以上ハ之レヲ「民族主義運動」ト誤解シテナラヌコトハ勿論デアルガ又「民族主義」ト××主義ノ提携」ヲ幻想シテモ善クナイ從ツテ労働者ト及其ノ同盟軍ハ此闘争ノ爲ニ民族主義ニ追從シ其ノ政党的組織ニ参加セルコトモ不可デアアルカ又「民族主義者」ト××主義者ノ提携」ニ別個ノ政党的組織ヲ持ツコトモ不當々茲ニ朝鮮無産階級ノ民族解放闘争ノ爲ノ協同戦線ノ問題ガ提起サルモノデ又其ノ協同戦線ハ××ノ

反帝反封建協同闘争ヨリ産出サルル大衆的戰闘的ノ「恒久的又ハ一時的」ノ組織トナラネバナラヌ

十一、然ルカ故ニ民族解放協同戦線ハ××ノ當面反帝反封建又口「ガン」ヲ行動綱領ニ從下の大衆的參加ニ依リ新幹會其他ノ内部分リノモノデナク其ノ外ヨリ共同闘争委員會「労働運動議會」ハ農民運動協議會「青年運動協議會」等ノ組織ヲ以テスルコトガ適宜ナリト見ル併シ多種多様ノ一時的組織時期ヲ形成セザルヲ得ナカツタノデアル。

十二、民族解放協同戦線ノ現在ニ於テノ行動綱領ハ××ノ反帝反封建ニ對スル日常闘争ノスローガンヲ懸ケル事ハ勿論デハアルガ同時ニ世界無産階級被壓迫民族及ソヴェート聯邦トノ聯合ニ對スルスローガンヲ作ラネバナラヌガ左ニ列記シタモノ

ヲ中心トスヘキモノト信スル

日本帝國主義ノ暴壓政治反對

日本帝國主義ノ産業政策反對

日本帝國主義ノ税金收奪反對

日本帝國主義ノ奴隸教育反對

勞力農民ニ無償土地ノ分與

失業反對最低賃金ノ制定

八時間労働制ト耕作權ノ確立

一切ノ封建制ノ撤廢

ソヴェート聯邦ノ擁護ト中國農民革命ノ支持

(五) 朝鮮無産階級運動ノ現段階

朝鮮無産階級ハ其ノ戰略ニ於テ現段階ノ××ヲ反帝反封建ノ闘争ニ規定シ××帝國主義ト共ニ朝鮮ノ封建主義ヲモ打倒スル方同ニ進出スルト同時ニ労働階級ノ闘争ハ民族資本家トモ反對ニナルモノタ

現段階ノ闘争勢力ト領導階級

現在ニ於テ地主階級ハ既ニ全体ガ××帝國主義ノ味方トナリ民族資本家カ之亦ヨクナラネバ××帝國主義ニ對スル改良主義的反對派即自治派ヲ代表スルニ至ル關係ニテ労働者農民(中農以上)都市小資産階級(都市手工業者及小商人)ノミ現段階ノ闘争目標ニ向進スル××勢力トナルモノタ其ノ中ニモ労働階級ハ領導權ヲ握ツテ進ムヨウニナル。

労働組合

朝鮮ノ労働階級ハ未ダ質的量的ニ微弱デハアルガ之ハ或階級ヨリモ闘争力ガ強大ニナルハ彼ノ元山罷工ガ資本家階級ヲ戦慄セシメタル以來幾多ノ労働争議ガ事實ニテ證明スルモノダ從テ労働組合ニ經濟闘争ノ領域ニ局限スル初步的意識ヲ持テル労働者迄廣汎ニ引入レソレヲ擴大強化スルニ於テ闘争ノ目標通り歩々ニ前進セバハナラヌ

農民組合

農村ニ於テ農業労働者ノ搾取壓迫ヲ受ケル現状ハ言フ迄モナイカ小農ハ飢餓の窮乏タ××主義ノ非人間蹂躪ニ堪エ得ス中農ハ税金收奪産業政策物價、政策累進的ナ高利貸借金、水利組合、農會等々ニ因リ小所有地ハ借金ノ爲奪ハレ悲惨ナル生活ヲ營ム

ニ至ル故ニ裸ニナツタ労働者ノ指導下ニテコレト同盟シ闘争ス  
ルノデアアルカ大農ハ農民大衆ニ對スル高利貸的搾取者トナルモ  
ノダ、カカルガ故ニ中農以下ノ農民ヲ以テ農民組合ヲ組織セネ  
バナラヌソノ英雄的闘争ハ既ニ不二争議、端川事件、漁郎事件  
等ニ於テ證明サレタ事デ言フ迄モナイ

#### 新幹會ニ對スル戰術

階級ノ党ハ唯一ノミダ從ツテ階級ガ一党ニ構成サルル事ガ出來  
ヌカラ中國ノ國民黨、印度ノスワラヂ党等ガ如何ニ國民的全体  
ノ利益ヲ標榜シテモコハ資本家階級一ツノミヲ代表スルモノデ  
アツテ日本ノ實業同志會ガ如何ニ民族的總代表タルヲ假裝シテ  
モンハ小資産階級ノ政党ニ過キナイ  
朝鮮ノ新幹會ガ民族唯一党トハ成リ得ナイコトハ之ニ依リ推定

スル事ヲ望ムガソハ現在ニ於テ一ノ小資産階級政党タルハ事實  
タ又其ノ中ニハ自治派、非自治派ニ内部的分裂ガ生シアルト同  
時ニ所謂非自治派ソノモノモ甚ダ酸味ナル態度ヲ持チ居ルモノ  
デアツテ彼様ナモノハ解消（解体、消滅）スヘキ事ヲ根本政策  
トシテ仕事ヲセネバナラヌ從ツテ新幹會本部又ハ各支會ニハ其  
ノ内部ヨリ之ヲ分解シ闘争スル大衆ヲ味方ニ引出スニ足ルヘキ  
幾人宛カラ擧ケテ労働者農民大衆ハ何レモ組合ニ參加セシメネ  
バナラヌ天道教、衡平社等ニモ同一ノ方法ヲ適用セネバナラヌ  
コトハ言迄モナイ

#### 青年團體

吾等ノ青年運動ハ労働青年ト農民青年ヲシテ指稱スルモノニテ  
ソハ労働組合青年部ニ結成シ堅ク且ツ全國的ノモノヲ形成セネ

ハナラヌ而シテ現在スル朝鮮青總ハ最モ動搖性アル小ブルジョ  
ア知識青年ガ滿員トナリアルヲ以テ茲ニモ改良主義的ニ進マザ  
ラシムル爲ノ人ヲ幾人宛ノミヲ入レ置キ勞農青年ハ參加セシメ  
ズ結局解消セホバナラヌ。

青年ノ本部ハ既ニ公民權獲得運動ノ本營トナリアルガ之ヲ肯定  
スル世評デアルカラ

#### 權友會ニ對スル戰術

吾等ノ婦女運動ハ勞役婦女ヲ以テスルモノニシテソハ勞働組合  
及農民組合ノ女子部ニ結成シ又ハ全國的集團ヲ作ラホバナラヌ  
現存ノ權友會ハソノモノガ小ブルジョア知識女性ノ啓蒙機關ニ  
過キザルモノデ結局解消スル政策ヲ以テ當分間勞農婦女以外勞  
役女子等テモ入レテ置ケハヨイ筈タ

#### 協同戰線戰術

反帝國主義協同戰線ハ、勞働者農民ヲ主轄トシテ都市小資産階  
級ヲモ合シ結成スルヲ根本方針トスソハ從下的大衆的組織トナ  
ラホバナラヌ。